

松戸市立博物館年報

第21号 - 平成25年度 (2013)



松戸市立博物館
MATSUDO MUSEUM

はじめに

平成25年度の当館の活動についてご報告させていただきます。

昨年度は松戸市制70周年であると同時に当館の20周年でもありました。平成5年にオープンした当館も、はや20年を迎えたわけです。人間なら成人式ということですが、当館ははたして一人前になれたのでしょうか？

この記念の年の関連事業として、春には館蔵資料展「写真でみる松戸市の70年」と「松戸市立博物館20年のあゆみ」を同時開催いたしました。松戸市70年の歩みを写真で、博物館の歩みを、ポスター、出版物、寄贈品などで振り返りました。夏には館蔵資料展「人生の民俗－誕生・結婚・葬送－」を開催しました。秋には特別展として「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」を開催しました。松戸市の埋蔵文化財行政の歩みを展示するとともに、関根孝夫前館長と国立歴史民俗博物館の平川南先生に記念講演をお願いいたしました。

また、当館の『紀要』21号では、20周年記念として、7名の学芸員全員が執筆し、日頃の研究活動の成果を示すことができました。

そのほか、展示では、冬の恒例となっております学習資料展「昔のくらし探検」を開催いたしました。

資料の収集では、錦絵1点を購入したほか、小松和央氏、久我五男氏、竹内哲氏、安蒜修氏から貴重な資料をご寄贈いただきました。ご厚意に感謝致しますとともに、末永く保存し、市民の皆様に公開していきたいと存じます。

また、各種の講演会、講座、体験学習を実施してまいりましたが、市民の皆様の要望にこたえられるように今後とも努力してまいります。

なお、本来ならば昨年の記念の年に刊行を予定しておりました『松戸市史 上巻』の改訂版は、平成26年度中に刊行の予定です。

さて、昨年度も、「博物館友の会」をはじめ、多くの皆様のご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。博物館は開館20周年を迎えた今、常設展示のリニューアル、施設の改修など、様々な課題を抱えております。市民の皆様に愛されて25周年、50周年を迎えられるよう努力する所存ですので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成26年 8月31日

松戸市立博物館

I 沿革	3
II 施設の概要	5
III 事業の概要	6
1 常設展示	
(1)総合展示	
(2)主題展示	
(3)野外展示	
(4)映像展示	
2 資料・企画展示	9
(1)市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展①「写真でみる松戸市の70年」②「松戸市立博物館20年のあゆみ」	
(2)市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「人生の民俗－誕生・結婚・葬送－」	
(3)市制施行70周年・開館20周年記念 特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」	
(4)学習資料展「昔のくらし探検」	
3 学習支援	25
(1)講演会	
(2)講座	
(3)体験学習	
(4)映像シアター・プレイルーム	
(5)館内公開	
(6)ガイドツアー（常設展示解説）	
(7)情報提供	
(8)博物館実習	
(9)教員・生徒の職場勤労体験の受け入れ	
4 調査・研究	35
(1)松戸市古文書調査（委託）	
(2)研究員の活動	
(3)学芸員の活動	
(4)市史編さん業務	
5 資料の収集と利用	39
(1)資料の収集	
(2)博物館資料の貸出	
(3)博物館資料の特別利用	
(4)資料の燻蒸等	
6 平成25年度 常設展・企画展アンケート結果	42
(1)平成25年度常設展	
(2)市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「写真でみる松戸市の70年」・「松戸市立博物館20年のあゆみ」	
(3)市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「人生の民俗－誕生・結婚・葬送－」	
(4)市制施行70周年・開館20周年記念 特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」	
(5)学習資料展「昔のくらし探検」	
IV 組織と運営	47
1 組織	
2 歳出予算	
3 事務事業	
4 各種委員会等	
5 博物館利用者数の統計	
6 来訪者	
V 条例・規則	53
職員名簿	

I 沿 革

月 日	事 項
昭和39年12月	松戸市公民館に郷土資料室設置(50㎡)
昭和46年4月	(財)松戸市開発協会内に移転、松戸市郷土資料館となる。(227.47㎡)
昭和49年11月	松戸市文化ホール内に移転、郷土資料コーナーとなる。(330㎡)
昭和56年3月	松戸市文化ホールが博物館相当施設となる。 松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想調査会条例制定
5月	松戸市美術館構想調査会発足[委員7名]
昭和58年8月	松戸市美術館構想調査会、松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)構想について答申(18回開催)
昭和59年4月	社会教育部内に美術館準備室設置
6月	松戸市美術館(郷土資料館及び古文書館を含む)建設調査会発足[委員10名]
11月	松戸市美術館建設調査会、美術館について答申
昭和60年3月	松戸市美術館建設調査会、郷土資料館・古文書館について答申(7回開催)
昭和63年9月	市議会に文化施設建設対策特別委員会設置[委員15名]
10月	第4次総合5ヶ年計画で郷土博物館(仮称)建設決定 美術館準備室に博物館担当学芸員を配属
11月	松戸市立郷土博物館展示検討委員会発足[委員10名]
12月	建設用地を総合公園「21世紀の森と広場」内と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会発足[委員8名]
平成元年3月	文化施設建設対策特別委員会において建築設計事務所選定方式をプロポーザル方式と決定 松戸市立郷土博物館設立懇談会において展示の基本構想を決定
4月	文化施設建設対策特別委員会において展示設計業者選定方式を特命方式と決定
8月	総合公園「21世紀の森と広場」内に建設位置決定
11月	松戸市立郷土博物館建築設計事務所選定委員会発足[委員8名] 展示基本設計を(株)乃村工芸社に委託
12月	建築設計事務所を(株)佐藤総合計画に決定
平成2年2月	建築基本設計を(株)佐藤総合計画に委託
3月	建築実施設計を(株)佐藤総合計画に委託
6月	展示実施設計を(株)乃村工芸社に委託
9月	博物館本体工事を大成・海老澤共同企業体と契約 博物館新築工事着手
平成3年9月	展示工事及び展示物製作を(株)乃村工芸社に委託、工事・製作着手
平成4年1月	外構工事着手
3月	植栽工事着手
4月	美術館準備室から分かれ、博物館開設室設置
6月	建築工事、外構工事竣工
7月	野外展示工事着手、植栽工事竣工
9月	松戸市立博物館条例制定(館名「松戸市立博物館」に決定)
12月	野外展示工事竣工

平成5年1月	展示工事竣工
3月	松戸市立博物館管理運営規則制定
4月	松戸市立博物館開館(29日) 初代岩崎卓也館長就任
10月	松戸市立博物館協議会発足[委員10名]
平成6年4月	機構改革にともない市立図書館より市史編さん係を移管
6月	館蔵「幸田貝塚出土品」266点国重要文化財指定(28日付)
平成7年6月	博物館登録 千葉県教育委員会 平成7年6月9日 登録番号第30号 博物館資料数 4,385点 <ul style="list-style-type: none"> (歴史資料 1,686点 考古資料 2,650点 民俗資料 49点
平成8年10月	博物館等資料選定評価委員会発足[委員5名]
平成9年3月	博物館開館5周年記念特別展示(期間:3月20日から5月11日まで) 「シルクロードとガンダーラ」展を実施
平成10年4月	博物館事業として「自然史」を加える。(松戸市立博物館条例改正) 機構改革にともない市史編さん係を廃し庶務係に吸収する。
平成13年10月	観覧料に「共通観覧料」を設ける。(松戸市立博物館条例改正)
平成14年6月	松戸市立博物館友の会発足(16日)
平成15年10月	松戸市制施行60周年記念・松戸市立博物館開館10周年記念特別展示(期間:10月11日から11月30日まで)「川の道江戸川」展を実施
平成18年10月	松戸市根本内歴史公園開園記念企画展「戦国の城をさぐる」実施(期間:10月7日から11月26日まで)
平成19年12月	松戸市立博物館友の会設立5周年活動記録「5年のあゆみ」刊行
平成20年3月	初代岩崎卓也館長退任
4月	2代関根孝夫館長就任 組織改革により、係制を廃止 ハイビジョンシアターをミュージアムシアターに改称
10月	松戸市立博物館開館15周年記念特別展示(期間:10月11日から12月7日まで) 「縄文時代の東・西」展を実施
平成21年5月	市史編さん委員会に、原始・古代及び中世各部会を設置し、松戸市史上巻改訂事業に本格的に着手。
平成23年3月	東日本大震災発生(11日)
4月	観覧料「中学生以下は無料」となる。(松戸市立博物館条例改正)
平成24年3月	2代関根孝夫館長退任
4月	3代望月幹夫館長就任
平成25年10月	松戸市制施行70周年記念・松戸市立博物館開館20周年記念特別展示(期間:10月5日から11月24日まで)「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」展を実施

Ⅱ 施設の概要

建築の概要

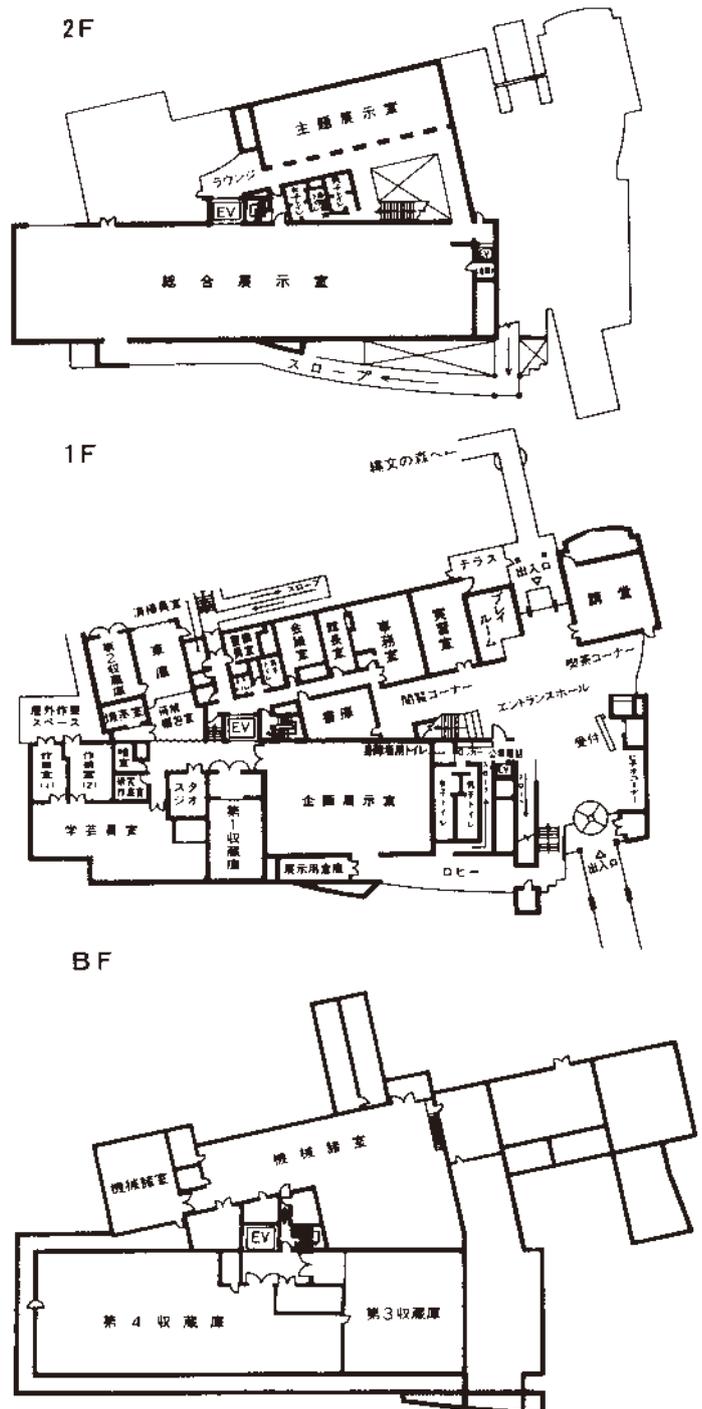
- 1)敷地面積 7,795.81㎡ 2)建築面積 2,709.92㎡
 3)延床面積 5,446.73㎡ 1階 2,515.17㎡/2階 1,542.92㎡/地下1階 1,388.64㎡
 4)階数 地下1階・地上2階 5)構造 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造(展示室 PRC梁構造)
 6)高さ 14.4m

注)博物館周辺環境との調和をはかるため高さを15m以内に、また地下水などの水脈保全のため地下部分についても10m以内に制限して建設を行った。

[各室の面積]

区分	室名	室数	階層	面積(㎡)
展示部門	総合展示室	1	2	873.40
	主題展示室	1	2	215.09
	企画展示室	1	1	318.85
	展示用倉庫	1	1	33.12
	小計			1,440.46
収蔵・保存部門	第1収蔵庫	1	1	102.67
	第2収蔵庫	1	1	46.20
	第3収蔵庫	1	B1	231.38
	第4収蔵庫	1	B1	472.41
	車庫・荷解梱包室	1	1	109.54
	作業室(1)	1	1	33.71
	作業室(2)	1	1	42.98
	燻蒸室	1	1	31.32
	小計			1,070.21
教育普及部門	講堂	1	1	124.88
	実習室	1	1	70.97
	プレイルーム	1	1	51.60
	閲覧コーナー	-	1	78.80
	ビデオコーナー	-	1	45.66
小計			371.91	
調査研究部門	書庫	1	1	50.19
	学芸員室	1	1	193.49
	スタジオ・暗室	1	1	40.30
	研究作業室	1	1	16.99
小計			300.97	
管理部門	館長室	1	1	33.03
	事務室	1	1	83.98
	会議室	1	1	38.27
	警備員室	1	1	25.03
	清掃室	1	1	10.67
	機械諸室	-	B1	575.49
	管理共有部分	-	1	424.54
	小計			1,191.01
サービス部門	エントランスホール	-	1	333.12
	喫茶コーナー	-	1	56.29
	ロビー	-	1	106.32
	スロープ	-	-	196.91
	共有部分	-	-	379.53
	小計			1,072.17
合計			5,446.73	

[各階の平面図]



Ⅲ 事業の概要

1 常設展示

(1) 総合展示

ゾーン1 人類の登場

■ 松戸のあけぼの

旧石器時代の展示空間は常設展示室の入り口部分、展示全体の導入部であるので、短時間で旧石器時代に関心を抱いてもらえるように、見てわかる展示を心がけた。特に実資料(石器)の展示については、単に「石」の羅列にならないように、3つの展示スペース相互に関連をもたせた。

ゾーン2 狩りと採集のムラ

■ 縄文人の暮らし

近年の相次ぐ発掘調査の成果は、これまでの縄文時代の生活に対する私達のイメージを一変させている。ここでは、遺跡から出土する動物・植物遺存体を手がかりにして、ムラの外での生業活動の復元を行い、貝の花貝塚の復元模型を中心にムラの中での日常生活の復元を行っている。

■ ムラのうつりかわり

縄文時代は安定した食糧供給に支えられて、人々は定住を始め、やがてムラを営むようになった。この縄文時代草創期から晩期にいたるムラの盛衰と生活基盤の変化を、幸田貝塚・子和清水貝塚・貝の花貝塚など、市内の遺跡の出土資料等を使用して、明らかにしようと試みている。

■ 人々の交流

縄文時代の人々は、近隣だけでなく、遠く離れた地域の人々とも交流していたことが、遺跡から出土する土器・石器などによってわかる。ここでは、松戸市内から出土した石器石材の産地推定を通して、松戸を中心とした縄文時代の人々の交流圏や、石材の入手経路について、展示を行っている。

ゾーン3 稲作社会の誕生

■ 米作りの暮らし

弥生時代になって中国大陸や朝鮮半島から多くの人々が日本に到来し、様々な新しい技術をもたらした。とりわけ、古墳時代の変化を松戸市域の出土資料を用いて展示している。

■ 古墳の出現

前方後円墳という共通の形の墓が全国で築かれた古墳時代における松戸市域の特質を、河原塚古墳群や栗山古墳群などの出土遺物を用いて展示を行っている。

ゾーン4 下総国のはじまり

■ 古代の松戸

古代の松戸周辺は下総国西端の葛飾郡に含まれていた。下総国の国府は市川市国府台周辺にあったと考えられており、この時期の松戸市域は政治的求心力のある国府の近郊地域として位置づけられる。

ゾーン5 武士と民衆

■ 千葉氏と高城氏

武士が政権の座に就いた中世、鎌倉時代の松戸市域では千葉氏の一族が登場する。本拠とした風早郷を名乗った風早氏である。室町から戦国時代にかけては高城氏が勢力を伸ばした。戦国後期に大谷口小金城を本拠とした高城氏は、東葛飾地域最大の領主となった。高城氏は戦国大名間の争いの渦中で、次第に後北条氏の支配に属するようになり、やがて豊臣秀吉の天下統一により滅亡を余儀なくされた。関連する文書資料および小金城出土資料などから同氏の当該期における位置づけを解説している。

■ 中世人の生と死

中世の人々は現世のみならず来世での幸福を強く願った。市内に残存する資料からその具体的な信仰を探った。板碑は供養碑としてとくに関東地方で流行した。市内の武蔵型板碑の出土地を見ると、多くは小さな谷が入り組んだ台地の縁辺部であるところから、中世人の生活空間が推量される。また関東中世史の研究に欠かせない「本土寺過去帳」所載の地名と一致する場合も多い。過去帳はその存在自体が人々の往生願望の現れであるが、ほかにも合戦記事、多くの職人の名などが見える。展示においてはその豊富な内容の一端を解説している。

ゾーン6 町場と村

■ 近世の村

近世社会に入ったころの松戸市域はほとんどが農村で、幕末でも松戸宿・小金宿を除き53の村(新田村を含む)に分かれていた。近世の領主は、村を行政単位として年貢などを徴収したり、宗門改めや五人組制度等によって農民を支配し、村では名主・組頭などの村役人を代表者として生産・生活を営んでいた。当時の農村生活の楽しみには、庚申講などでの共同飲食や、お伊勢参りなど寺社参詣の旅があった。

■ 宿場と河岸

松戸市域には水戸道中松戸宿と小金宿の2つの宿場町があった。幕府の交通政策によって公的に設定された宿は、単なる交通の拠点としてでなく、周辺の流通・経済の中心地として発展した。特に江戸川岸に河岸場が発達した松戸宿は、陸上交通だけでなく、江戸川と利根川の河川交通・流通の中継基地という性格が加わり、また江戸川の対岸金町に幕府が関所を設けたので旅籠も多く、下総北西部の重要な町場に発展した。

■ 小金牧と御鹿狩

下総台地には古代から馬の牧場が設置され放牧が行われていた。江戸幕府はこの台地に直轄の牧場、小金牧・佐倉牧を開設するが、大半が小金牧に含まれた市域は、牧を管理する野馬奉行役宅や金ヶ作役所が設けられ、牧支配の中核地だった。また、徳川将軍家は「御鹿狩」と呼ばれた大規模な狩りを小金原で計4回行ったが、その舞台は現在の松飛台周辺だった。この狩りには、小金原の地元はもちろん武蔵・上総など4か国から農民が勢子として動員されたが、めったにない娯楽的要素もあった。

ゾーン7 都市へのあゆみ

■ 松戸1868～1960

近代を迎えた松戸は葛飾県、印旛県をへて千葉県に編入される。郡役所、郵便局、警察、裁判所が置かれ、東葛飾郡の行政の中心となった。19世紀末から20世紀初頭にかけては常磐線、流電、東武野田線(いずれも現在の名称)が市内を通過し、交通網の整備がすすむ。やがて戦争の時代にいたると多くの市民が戦場へ駆り出され、あるいは銃後の生活を強いられた。戦後の松戸は常盤平団地に象徴されるように、首都圏の住宅供給地として、大きくその景観、産業構造を変貌させている。このような近現代での松戸の変化を絵年表を中心に、市域の変遷図、土地利用変遷図などの資料を用い、日本史全体の流れを考慮しつつ解説している。

■ 下谷・谷津・台

松戸市が現在のような姿になったのは、昭和30年～40年代の高度経済成長期に大規模な宅地開発や工業団地の造成が行われたことが大きい。この時期には人口の社会増が大きく、市民の生活も全体的な景観も大きく変貌した。ここでは、下谷・谷津・台というフォークタームから、市域を江戸川低地(下谷)、下総台地の開析谷周辺(谷津)、下総台地の平坦面(台)の3種類に分け、大きな変貌を遂げる直前の昭和30年代前半の景観模型をもとに、地形、水利、生産形態、住まい方などを例にとりて先人の人々の生活の場がどのようなものであったのかを対比的に説明している。

■ 常盤平団地の誕生

松戸市は昭和30年代の半ばから、その大半を占めていた近郊農村から首都圏の住宅都市へと急激にその姿を変貌させていくが、その先駆けとなったのが常盤平団地であった。この団地の住民の大半が首都圏の企業に勤めるサラリーマンの家庭で、住宅都市を目指していた松戸市の新しい市民像を代表していた。この展示では、あるサラリーマン家庭の昭和37年の暮らしが当時の生活財によって原寸大の2DKのなかに復元されている。

(2) 主題展示

主題1 考古学と科学の眼

総合展示室で復元されている4000年前の縄文時代に存在した森はどのようにして復元されたのか、また、縄文時代の海岸線をどのようにして知ることが出来たのか。あるいは、文字などのなかった遙か昔の年代がなぜ分かるのか、といった主に自然科学的な手法を用いた歴史の復元方法を紹介している。

主題2 虚無僧寺一月寺

江戸時代の小金宿には、青梅鈴法寺とともに普化宗総本山だった一月寺があり、全国に知られていた。中国唐代の普化禅師を宗祖とする禅宗の一派だった普化宗と、その僧侶である虚無僧が、近代前期に成立して近世中期に最盛期を迎えたこと。また、映像によって虚無僧の姿や生活の歴史や、江戸時代虚無僧に独占された尺八の歴史・音楽などを紹介している。

主題3 二十世紀梨の誕生

果物のナシの代表品種「二十世紀梨」は、現在鳥取県での栽培が有名であるが、実は明治時代に現在の松戸市内で松戸覚之助少年に偶然発見され、次第に全国で栽培されたのであった。そのため、現在市内に「二十世紀が丘」の地名が残るが、この展示室では発見者松戸覚之助のことや、発見以前(江戸時代)から盛んであった下総東葛地域のナシ栽培の歴史、また映像により現在の市内梨園での二十世紀梨の開花から収穫までの栽培の様子を紹介している。

主題4 三匹獅子舞

松戸市内の3地区で演じられている獅子舞は、ひと組の踊り手が3人からなる「三匹獅子舞」と呼ばれるものである。シシ(獅子)が登場する芸能は日本国内ではなじみ深いものであるが、一口にシシといっても、頭の形・演じ方ともにさまざまな違いがあることは意外に知られていない。ここでは山路興造氏の所説をもとに、三匹獅子舞の特徴、一人立ちの獅子舞と二人立ちの獅子舞の差異、絵画史料にみる一人立ちの獅子舞と風流踊、といった観点から三匹獅子舞の系譜と地域的広がりを映像を用いて解説している。

(3) 野外展示

竪穴住居復元

博物館北側の台地に、市内の遺跡から発掘された住居跡の資料に基づいて、縄文時代中期の竪穴住居3棟を原寸復元した。常時、竪穴住居1棟を開放し、住居内を自由に見学できるようになっている。

(4) 映像展示

ビデオコーナー

■ ビデオ映像

松戸市内に関わりのある映像ソフト7作品を製作して公開している。

- ①大地に埋もれた歴史
- ②町並み今昔物語
- ③富士講
- ④万作を語る
- ⑤三匹獅子舞～和名ヶ谷～
- ⑥三匹獅子舞～上本郷～
- ⑦三匹獅子舞～大橋～

2 資料・企画展示

(1) 市制施行70周年・開館20周年記念

館蔵資料展 ①「写真でみる松戸市の70年」②「松戸市立博物館20年のあゆみ」

(企画展示室を2室に分け同時開催)

◆①展示意図

松戸市は昭和18(1943)年4月1日、県下7番目の市として誕生した。市制施行70周年を記念して広報担当室より移管した写真を中心に展示をおこない、松戸市のあゆみを振り返る。

◆②展示意図

松戸市立博物館は平成5(1993)年4月29日に開館し、20回目の誕生日を迎えた。この展覧会では、これまで博物館が行ってきた調査研究、資料収集、展示、普及などの活動を振り返り、今後の博物館のあり方を展望するための機会とする。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 柏木一朝<当館学芸員>①
山田尚彦<当館学芸員>②)

◆会期 平成25年4月27日(土)～6月9日(日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 5,241人(37日間)

◆観覧料 無料

◆印刷物 ①②共通 ポスター B2判 300枚
①②共通 ちらし A4判 10,000枚
①展示リスト A3判 1,000部(館で印刷)
②パンフレット A4版6ページ 1,000部(館で印刷)



◆①展示リスト

No.	名称	年代
I	【農村から住宅都市へ】	
1	松戸町職員集合写真	昭和18年(1943)
2(前)	六実を走る進駐軍のジープ	昭和20年代
2(後)	六実のバー	昭和20年代
3(前)	中部小学校/市制10周年記念式典会場	昭和28年(1953)5月15日
3(後)	旧水戸街道(西蓮寺付近)/消防団パレード	昭和28年(1953)5月13日
4(前)	松戸駅	昭和28年(1953)5月
4(後)	松戸競輪場	昭和28年(1953)
5(前)	新京成電鉄開業当時の電車(モハ45形48号車)	昭和28年(1953)
5(後)	松戸駅新京成電鉄ホーム	
6	古ヶ崎の田植	昭和29年(1954)5月
7(前)	北小金駅	昭和29年(1954)10月
7(後)	北松戸駅	昭和30年(1955)
8(前)	金ヶ作駅(現、常盤平駅)	昭和31年(1956)
8(後)	金ヶ作駅(現、常盤平駅)を通過する電車	昭和31年(1956)
9(前)	小金小学校	昭和31年(1956)
9(後)	相模台小学校	昭和33年(1958)
10(前)	旧水戸街道松戸駅入口付近	昭和32年(1957)
10(後)	旧水戸街道松戸駅入口付近	昭和34年(1959)
11(前)	旧水戸街道松戸駅入口付近	昭和33年(1958)
11(後)	北松戸駅	昭和33年(1958)12月
12	常盤平団地建設予定地	昭和33年頃
13	東部土地改良地区	昭和38年(1963)6月25日

Ⅱ	【人口急増の時代】	
14	すぐやる課作業風景	昭和40年代
15(前)	松戸駅西口	昭和38年(1963) 2月
15(後)	市制20周年のアーチ/松戸駅西口	昭和38年(1963)
16	松戸市立北部小学校/日本武尊に仮装した石橋與市松戸市長	昭和38年(1963)
17(前)	南花島土地区画整理	昭和38年(1963) 1月
17(後)	七右衛門新田の酪農	昭和39年(1964)
18(前)	矢切小学校	昭和38年(1963) 7月
18(後)	稔台小学校起工式	昭和39年(1964) 8月24日
19(前)	常盤平駅	昭和41年(1966)
19(後)	常盤平駅前	昭和41年(1966)
20(前)	常盤平団地を視察する佐藤栄作首相	昭和41年(1966) 9月22日
20(後)	松戸市立病院/松戸市小山	昭和41年(1966)
21(前)	小金原団地建設予定地/公団事務所付近	昭和40年頃
21(後)	建築中の小金原団地	昭和43年(1968)
22(前)	小金原団地入居風景	昭和44年(1969)
22(後)	小金原団地入居風景	昭和44年(1969)
23(前)	集団登校/馬橋小学校生徒	昭和42年(1967) 4月
23(後)	松本清市長の交通指導員	昭和44年(1969) 6月12日
24	ごみ処理風景/秋山	昭和45年(1970)
25	馬橋駅/県立松戸高校移転祝賀アーチ	昭和40年(1965) 9月
26	スモッグ/市役所より松戸駅を望む	昭和47年(1972)
27	ボックスヒル市・松戸市姉妹都市提携祝賀会/戸定邸庭園	昭和46年(1971) 5月
28(前)	区画整理中の20世紀ヶ丘/二十世紀梨原樹碑付近	昭和46年(1971)
28(後)	葛飾橋付け替え工事	昭和47年(1972)
29	国体炬火ランナー	昭和48年(1973)
30	新松戸駅開業記念式典	昭和48年(1973) 3月30日
31(前)	新松戸駅	昭和53年(1978)
31(後)	新松戸	昭和53年(1978)
32(前)	常盤平桜まつり	昭和48年(1973)
32(後)	第1回こどもまつり	昭和49年(1974) 5月5日
33(前)	プレハブ校舎	昭和49年(1974)
33(後)	プレハブ校舎での授業風景	昭和49年(1974)
34(前)	第1回松戸まつり	昭和49年(1974) 10月
34(後)	第1回松戸まつり	昭和49年(1974) 10月
35(前)	公害課の水質検査	昭和50年(1975)
35(後)	リサイクル運動/五香南町会	昭和52年(1977) 6月
36(前)	台風24号による水害/馬橋駅西口付近	昭和56年(1981) 10月
36(後)	沼田千葉県知事常磐線体験乗車/松戸駅	昭和57年(1982) 1月
37	千駄堀(現:21世紀の森と広場)	昭和56年(1981)
Ⅲ	【都市環境整備の時代へ】	
38	旭町田植	昭和59年(1984)
39	新松戸の踏み車	昭和59年(1984) 7月24日
40	放置自転車の撤去	昭和59年(1984)
41(前)	常盤平桜まつり	昭和60年(1985) 4月6日
41(後)	六実さくらまつり	昭和62年(1987) 4月
42(前)	リサイクルセンター/宮間満寿夫市長(中央帽子の男性)	昭和60年(1985)
42(後)	ごみを減らす課キャンペーン/松戸駅西口	平成2年(1990) 4月2日
43(前)	大相撲松戸場所	昭和61年(1986) 4月15日
43(後)	五香踏切	昭和61年(1986) 4月
44(前)	松戸駅特急ひたち停車記念式典	昭和61年(1986) 11月1日
44(後)	開業90周年を迎えた松戸駅/改札	昭和61年(1986) 12月25日
45	第2回新松戸市民まつり	昭和63年(1986) 7月28日
46(前)	坂川市民清掃	昭和63年(1986)
46(後)	坂川多目的護岸	平成10年(1998) 4月
47	21世紀の森と広場(平成5年4月29日開園)	平成23年(2011)
48	第3回松戸宿坂川献灯まつり	平成20年(2008) 8月9日
49	天皇皇后両陛下下行幸啓/戸定邸	平成21年(2009) 10月16日
50	山崎直子宇宙飛行士歓迎パレード/松戸駅西口	平成22年(2010) 5月22日

※展示期間 (前)・前期: 4/27~5/19 (後)・後期: 5/21~6/7

展示室入口掲示写真(期間中に4回展示替)		
①	【市制施行の頃】	
1	松戸市役所(旧松戸町役場)	昭和7年(1932)7月28日落成
2	松戸国民学校南部校舎(現、南部小学校)/運動会	昭和中
3	陸軍工兵学校八柱作業場(現、稔台)	昭和中
②	【小学校の風景】	
1	矢切小学校	昭和34年(1959)
2	北部小学校	昭和43年(1968)4月
3	旭町小学校(運動会)	昭和57年(1982)9月
③	【街角の風景】	
1	旧水戸街道交通安全パレード	昭和42年(1967)
2	松戸駅西口仲通り	昭和53年(1978)
3	北小金駅南口駅前通り	平成元年(1989)3月8日
④	【川の風景】	
1	江戸川の土手から葛飾橋を望む	昭和29年(1954)5月
2	坂川	昭和45年(1970)
3	雪の江戸川	昭和59年(1984)1月31日
⑤	【駅がある風景】	
1	五香駅	昭和45年(1970)
2	小金城址駅	昭和58年(1983)
3	新松戸駅	昭和57年(1982)11月25日

◆②展示リスト

	形態	名称	年代	判型		
1 展示活動	ポスター	開館告知A	1993年4月	A3×2		
	ポスター	開館告知B	1993年4月	B1		
	ポスター	開館記念展	松戸写真館－カメラがとらえた松戸の人々－	1993年4月	B2	
	ポスター	開館記念特別展	縄文土器の世界(実物が確認できず、「WANTED!」表示)	1993年10月	A2	
	ポスター	企画展	東葛地区新出土品展	1994年2月	B2	
	ポスター	企画展	救いの民俗－地獄極楽冥土の旅路－	1994年7月	A1	
	ポスター	特別展	馬と牧－かつて松戸は牧場だった－	1994年10月	A1	
	ポスター	国重要文化財指定記念	幸田貝塚出土品展	1995年1月	B2	
	ポスター	企画展	稲と魚－水田をめぐる漁・猟・採集－	1995年7月	A1	
	ポスター	特別展	古墳時代の飾り馬－馬利用の始まりを探る－	1995年10月	A1	
	ポスター	企画展	小金城主高城氏	1996年10月	A1	
	ポスター	開館5周年記念特別展	シルクロードとガンダーラ	1997年3月	A1	
	ポスター	巡回展	ネアンデルタール人の復活	1997年11月	B2	
	ポスター	特別展	福神の世界	1998年3月	A1	
	ポスター	企画展	水戸道中 宿場と旅人	1998年10月	A1	
	ポスター	特別展	貝塚を考える	1999年3月	A1	
	ポスター	企画展	戦後松戸の生活革新－新しい暮らし方へのあこがれ－	2000年10月	A1	
	ポスター	企画展	中世の東葛飾－いのり・くらし・まつりごと－	2001年10月	A1	
	ポスター	企画展	弥生人の脳発見!とっとり青谷上寺地遺跡展－松戸で弥生人にあえる－	2002年7月	B2	
	ポスター	企画展	はにわの十字路	2002年10月	B2	

	形態	名称		年代	判型		
	ポスター	開館10周年 記念特別展	川の道 江戸川	2003年10月	B 2		
	ポスター	企画展	昔のくらし探検<松戸版>	2004年7月	B 3		
	ポスター	企画展	ペルシャ文明の曙	2005年10月	B 2		
	ポスター	企画展	戦国の城をさぐる	2006年10月	B 2		
	ポスター	企画展	大名の旅-本陣と街道-	2007年10月	B 2		
	ポスター	開館15周年 記念特別展	縄文時代の東・西	2008年10月	B 2		
	ポスター	企画展	人生儀礼の世界	2009年10月	B 2		
	ポスター	企画展	湯浅喜代治考古コレクション -夢を追った70年-	2010年10月	B 2		
	ポスター	企画展	東日本の古墳と渡来文化 -海を越える人とモノ-	2012年10月	B 2		
	形態	分野	名称	年代	作者	寄贈者	展示期間
2 資料収集 活動	実物資料	歴史学	「松戸市郷土史料館」看板	昭和46年			前後期
	実物資料	歴史学	錦絵(大判横) 新版浮絵忠 臣蔵之内 九段目	文化9~ 天保15	歌川国直		前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	歴史学	錦絵(大判縦) 富士三十六 景 下総小金原	安政5年 (1858)	歌川広重		前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	歴史学	絵巻 下総国小金乃原御狩 之図 御狩場之図	寛政7年 (1795)	源季寛 (写本)		前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	歴史学	千葉胤富書状	永禄9 (1566)年 2月29日			前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	考古学	市川市・一の谷遺跡出土 縄 文土器・深鉢	中期		湯浅千代 子氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	考古学	松戸市・柿ノ木台遺跡出土 縄文土器・深鉢	後期		大野康男・ 田井知三 氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	考古学	松戸市・柿ノ木台遺跡出土 縄文土器・深鉢	後期		大野康男・ 田井知三 氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	考古学	印旛郡栄町・興津地内出土 縄文土器片(人面付)	縄文時代		湯浅千代 子氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	考古学	松戸市・通源寺遺跡出土 土 偶装飾付土器(土偶部破片)	縄文時代			前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	考古学	松戸市・貝の花遺跡出土 土 偶(4点)	縄文時代後・ 晩期			前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	民俗学	角町念仏講の道具			中台栄氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	民俗学	富士登拝の装束			森田実氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	民俗学	富士登拝の杖			森田実氏	前期(4/27~ 5/19)
	実物資料	歴史学	錦絵(大判横) 忠臣蔵 九 段目	天保11~ 15年	歌川広重		後期(5/21~ 6/9)
	実物資料	歴史学	錦絵(大判縦) 富士三十六 景 下総小金原	安政5年 (1858)	歌川広重		後期(5/21~ 6/9)
	実物資料	歴史学	絵巻 下総国小金乃原御狩 之図 松戸宿船橋之図	寛政7年 (1795)	源季寛 (写本)		後期(5/21~ 6/9)
	実物資料	歴史学	千葉胤富書状	永禄9 (1566)年 2月29日			後期(5/21~ 6/9)
	実物資料	考古学	伝・成田市北須賀出土 石製 模造品ほか	古墳時代		湯浅千代 子氏	後期(5/21~ 6/9)
	実物資料	考古学	栃木県佐野市鶴舞窯跡出土 下野国分寺の文字瓦	奈良時代		岩崎卓也 氏	後期(5/21~ 6/9)
実物資料	考古学	下総国分寺跡出土 下総国 分寺の瓦	奈良時代		湯浅千代 子氏	後期(5/21~ 6/9)	

	形態	分野	名称	年代	作者	寄贈者	展示期間
	実物資料	考古学	出土地不明(朝鮮半島) 新羅の埴・瓦	統一新羅時代		和田鷹男氏	後期(5/21~6/9)
	実物資料	民俗学	男物羽織単衣			土屋亮平氏	後期(5/21~6/9)
	実物資料	民俗学	男物長着単衣			土屋亮平氏	後期(5/21~6/9)
	実物資料	民俗学	女物長着単衣			土屋亮平氏	後期(5/21~6/9)
	実物資料	民俗学	疱瘡日待のサンダワラ			横山定敏氏	後期(5/21~6/9)
	実物資料	民俗学	疱瘡日待のサンダワラ			馬場烝治氏	後期(5/21~6/9)
	パネル		博物館資料寄贈者紹介(118件)				
	形態	シリーズ名	名称	年代	判型		
3 調査研究活動	刊行物		松戸市立博物館要覧	1993年4月	B5		
	刊行物		松戸市立博物館〔要覧〕	1993年6月	B5		
	刊行物		松戸市立博物館施設概要〔改訂版〕	2001年3月	B5		
	刊行物	松戸市立博物館調査報告書1	千葉県松戸市の三匹獅子舞	1994年3月	A4		
	刊行物	松戸市立博物館調査報告書2	縄文時代以降の松戸の海と森の復元	1994年8月	A4		
	刊行物	松戸市立博物館調査報告書3	松戸市民家調査報告書	1996年3月	A4		
	刊行物	松戸市立博物館調査報告書4	松戸市旧宿場町建築物調査報告書	1999年3月	A4		
	刊行物	松戸市立博物館歴史資料集1	松戸市小金東漸寺所蔵資料目録	1994年3月	B5		
	刊行物	松戸市立博物館歴史資料集2	青木源内家所蔵資料目録	1997年3月	B5		
	刊行物	松戸市史考古資料集1	大谷口遺跡の土師器と須恵器	2006年10月	A4		
	刊行物	松戸市史考古資料集2	千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする考古資料	2008年2月	A4		
	刊行物	松戸市史考古資料集3	関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告、寒風台遺跡出土石器再整理報告	2009年3月	A4		
	刊行物	松戸市史考古資料集4	上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を中心とする考古資料	2010年3月	A4		
	刊行物	展覧会図録	松戸写真館－カメラがとらえた松戸の人々－	1993年4月	AB		
	刊行物	展覧会図録	縄文土器の世界	1993年10月	A4		
	刊行物	展覧会図録	常設展示図録	1994年3月	B5		
	刊行物	展覧会図録	救いの民俗－地獄極楽冥土の旅路－	1994年7月	A4		
	刊行物	展覧会図録	馬と牧－かつて松戸は牧場だった－	1994年10月	A4		
	刊行物	展覧会図録	稲と魚－水田をめぐる漁・猟・採集－	1995年7月	AB変形		
	刊行物	展覧会図録	古墳時代の飾り馬－馬利用の始まりを探る－	1995年10月	A4		
刊行物	展覧会図録	ネアンデルタール人の復活	1995年11月	B5			

	形態	シリーズ名	名称	年代	判型	
	刊行物	展覧会図録	小金城主高城氏	1996年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	シルクロードとガンダーラ	1996年3月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	福神の世界	1998年3月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	水戸道中 宿場と旅人	1998年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	貝塚を考える	1999年3月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	戦後松戸の生活革新－新しい暮らし方へのあこがれ－	2000年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	中世の東葛飾－いのり・くらし・まつりごと－	2001年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	小金城主高城氏(補訂版)	2001年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	弥生人の脳発見!とっとり青谷上寺地遺跡展－松戸で弥生人にあえる－	2002年7月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	はにわの十字路	2002年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	川の道江戸川	2003年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	昔の暮らし探検<松戸版>	2004年7月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	常設展示図録(改訂版)	2004年8月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	ペルシャ文明の曙	2005年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	戦国の城をさぐる	2006年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	大名の旅－本陣と街道－	2007年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	縄文時代の東・西	2008年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	人生儀礼の世界	2009年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	湯浅喜代治考古コレクション 夢を追った70年	2010年10月	A 4	
	刊行物	展覧会図録	東日本の古墳と渡来文化－海を越える人とモノ－	2012年10月	A 4	
	刊行物	単行本	江戸川の社会史	2005年1月	A 5	
	VTR	松戸市立博物館映像記録5	送り大師 東葛印旛大師講の人々	1996年		
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第1号	1994年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第2号	1995年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第3号	1996年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第4号	1997年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第5号	1998年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第6号	1999年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第7号	2000年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第8号	2001年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第9号	2002年3月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第10号	2003年9月	B 5	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第11号	2004年3月	A 4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第12号	2005年3月	A 4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第13号	2006年3月	A 4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第14号	2007年3月	A 4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第15号	2008年3月	A 4	

	形態	シリーズ名	名称	年代	判型	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第16号	2009年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第17号	2010年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第18号	2011年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第19号	2012年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館紀要	第20号	2013年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第1号	1995年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第2号	1996年3月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第3号	1996年9月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第4号	1997年9月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第5号	1998年9月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第6号	1999年9月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第7号	2000年10月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第8号	2001年10月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第9号	2002年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第10号	2003年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第11号	2004年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第12号	2005年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第13号	2006年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第14号	2007年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第15号	2008年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第16号	2009年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第17号	2010年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第18号	2011年8月	A4	
	刊行物	松戸市立博物館年報	第19号	2012年8月	A4	
	形態		名称			
4 普及活動	写真帳 + デジタルフォトフレーム		講座、体験教室、講演会等の写真記録(196点)とマスコミ取材記事(160件)			
	形態		名称			
5 友の会の活動	パネル		友の会の活動紹介			
	実物資料、印刷物ほか		部会の成果物紹介			

(2) 市制施行70周年・開館20周年記念

館蔵資料展「人生の民俗－誕生・結婚・葬送－」

◆展示意図

本館蔵資料展は、多くの市民の方々から寄贈された資料によって、人の誕生から成人、結婚を経て、老いて死を迎え、先祖としてまつられるまでの人生を豊かに彩る民俗を展示し、50年程前まで行われていた自宅での出産や祝言、死者を埋葬していた当時の葬式を通して、地域社会のなかでつちかわられていた人生の姿を表している。

- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木俊也<当館学芸員>)
- ◆会期 平成25年7月20日(土)～9月16日(月・祝)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 2,788人
- ◆観覧料 無料
- ◆印刷物

チラシ	A 4判	10,000枚(委託製作)
ポスター	B 2判	300枚(委託製作)
展示資料リスト	A 3判 2つ折	1,000枚(館で印刷)



1. 出産と育児<一生のはじまり>

実物資料番号	実物資料名
1	水天宮の腹帯
2	手児名霊堂の腹帯の包紙
3	農家の間取り模型(20分の1)
4・1	ミツメのぼた餅(レプリカ)
4・2	重箱
5	オクルミ(復元)
6	麻の葉の産着(復元)
7	男児宮参り祝い着
8	女児宮参り祝い着
9	食い初め用食器
10	雛人形
11	五月節句の内飾り
12・1	鯉幟(真鯉)
12・2	鯉幟(緋鯉)
13	五月節句の幟(一対)
14	女児三歳の年祝いの着物
15・1	男児年祝いの着物(一式)・羽織
15・2	男児年祝いの着物(一式)・長着
15・3	男児年祝いの着物(一式)・中着
15・4	男児年祝いの着物(一式)・袴

写真資料番号	写真資料名
1	戌の日の水天宮(写真)
2	赤ちゃんの普段着(参考写真)
3	名付け(写真)
4	宮参り(写真)
5	宮参り(写真)
6	宮参り(写真)
7	宮参りの祝宴(写真)
8	食い初め(写真)
9	食い初め(写真)
10	食い初め(写真)
11	食い初め(写真)
12	初節句の雛飾り(写真)
13	女児初節供(写真)
14	男児初節供(写真)
15	女児三歳年祝い(写真)
16	女児三歳年祝い(写真)
17	女児七歳年祝い(写真)
18	女児三歳年祝い(写真)
19	女児七歳年祝い(写真)
20	男児五歳年祝い(写真)

2. 結婚<一生のふしめ>

実物資料番号	実物資料名
16	角樽
17	結納品九品目揃(台付)
18・1	嫁入り衣装(一式)・振り袖
18・2	嫁入り衣装(一式)・丸帯
18・3	嫁入り衣装(一式)・筥迫
18・4	嫁入り衣装(一式)・扇子
18・5	嫁入り衣装(一式)・櫛と笄
19	嫁入り衣装・江戸褌
20	婿の衣装
21	三三九度の盃
22	酒差し
23	オチツキのぼた餅(レプリカ)

写真資料番号	写真資料名
21	嫁の入室儀礼(写真)
22	写真にみる商家の祝言
22・1	荷送り 嫁入り道具の到着
22・2	嫁入り道具
22・3	祝いの飾り
22・4	婚家での夫婦の盃
22・5	松戸神社へ出発
22・6	松戸神社に到着
22・7	祝詞奏上
22・8	三三九度の盃
22・9	三三九度の盃
22・10	嫁と付き添いの仲人
22・11	松戸神社から披露宴へ
22・12	仲人に付き添われて披露宴へ
22・13	料亭での記念写真
22・14	料亭での披露宴
22・15	料亭での披露宴
22・16	嫁の色直し
22・17	婚家での宴席
22・18	新婚旅行
23	振り袖の嫁(写真)
24・1	夫婦の盃(写真)
24・2	参列者の盃事(写真)
25	夫婦の盃(写真)
26	披露宴(写真)
27	披露宴(写真)

3. 葬送<一生のおわりへ あの世への旅立ち>

実物資料番号	実物資料名
24	枕団子(レプリカ)
25	枕飯(レプリカ)
26	あの世への旅支度(死装束・草履・杖)
27	葬式用祭壇一式
28	四十九餅の俵(復元)
29	四本旗(復元)
30	輿
31	棺箱用の晒布
32	天蓋
33	龍頭
34	六道の装束
35	シハライ餅(レプリカ)
36	タチビのぼた餅(レプリカ)
37	新盆の高灯籠
38	新盆の白提灯
39	新盆の旅支度

写真資料番号	写真資料名
28	祖父の臨終(写真)
29	昭和30年代の葬式写真
29・1	喪家に入る住職
29・2	待機する六道
29・3	出棺の準備
29・4	棺桶を乗せる輿
29・5	棺桶を喪家から出す六道
29・6	喪家から出る住職
29・7	葬列の旗を持つ人
29・8	葬列の生花を持つ人たち
29・9	葬列の題目講の人たち
29・10	葬列の住職
29・11	葬列の棺桶を担ぐ六道
29・12	枕飯を持つ人
29・13	本堂の前を廻る葬列
29・14	本堂の前を廻る葬列
29・15	棺桶を本堂に納める
29・16	棺桶を本堂に納める
29・17	本堂に納められた棺桶
29・18	焚き火にあたる六道
29・19	塔婆
30	葬式の祭壇(写真)
31	葬式の祭壇(写真)
32	葬式の花輪(写真)
33	葬式の祭壇(写真)
34	シハライ餅(写真)
35	新盆の高灯籠(写真)
36	新盆の旅支度(写真)

(3) 市制施行70周年・開館20周年記念

特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」

◆展示意図

松戸市が1955年の河原塚古墳の発掘を契機に、埋蔵文化財の保護・活用に積極的に関わり、約60年経過した。そこで、この60年間に世間の注目を集めた発掘調査の成果や近年の研究によって再評価されることになった遺跡とその出土品を紹介する。加えて、市外の機関に所蔵されている松戸市内の遺跡出土品のうち本市の歴史を語る上で重要な資料を一堂に会し公開する。

◆主催 松戸市立博物館(企画担当 大森隆志・小林孝秀・中山文人〈当館学芸員〉)

◆会期 平成25年10月5日(土)～11月24日(日)

◆会場 松戸市立博物館 企画展示室

◆観覧者数 2,576人(44日)

◆観覧料 一般 300円(団体 240円 共通 500円)
 高大生 150円(団体 100円 共通 250円)
 中学生以下 無料

◆印刷物

ポスター	B 2判	700枚
チラシ	A 4判	20,000枚
展示図録	A 4判	1,500冊
展示資料リスト	A 3判	1,200枚
こどものためのてんじワークシート	A 3判	600枚

◆関連企画

・特別展記念講演会①「松戸における遺跡調査の歩み」(会場:博物館講堂)

対象者 一般
 開催月日 平成25年10月13日(日)午後1時～3時
 講師 関根孝夫(東海大学名誉教授・当館前館長)
 参加人数 78人

・特別展記念講演会②「古代の松戸と下総国府」(会場:松戸市民劇場)

対象者 一般
 開催月日 平成25年10月26日(土)午後1時～3時
 講師 平川 南(国立歴史民俗博物館長)
 参加人数 171人

・学芸員講演会「松戸の旧石器・縄文時代－新しい発見と再評価－」(会場:博物館講堂)

対象者 一般
 開催月日 平成25年11月9日(土)午後1時～3時
 講師 大森隆志(当館学芸員)
 参加人数 58人

・学芸員講演会「松戸の古墳はじめて物語」(会場:博物館講堂)

対象者 一般
 開催月日 平成25年11月23日(土・祝)午後1時～3時
 講師 小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 58人

・学芸員講演会「小金城・根木内城イッキ見ツアー」(小金城跡・根木内城跡周辺見学)

対象者 一般
 開催月日 平成25年11月16日(土)午後12時30分～4時



講師 中山文人(当館学芸員)
参加人数 39人

・展示解説会

対象者 一般
開催月日 平成25年10月12日(土)(22人) 10月27日(日)(28人) 11月10日(日)(13人)
11月17日(日)(36人) 11月24日(日)(15人)
午後2時30分～3時30分
講師 大森隆志・小林孝秀・中山文人(当館学芸員)
参加人数 延べ114人

・オリジナルしおりづくり

参加人数 380人(こども 230人 大人 150人)

◆展示資料

展示品目録

I. 旧石器時代

No.	資料名	点数	時期	所蔵・保管
1	関場遺跡第2地点IX層下部～X層上部の石器	4	旧石器時代	松戸市教育委員会
2	関場遺跡第2地点IX層下部～X層上部の石器	1	旧石器時代	松戸市教育委員会
3	関場遺跡第2地点IX層下部～X層上部の石器	6	旧石器時代	松戸市教育委員会
4	草刈六之台遺跡	5	旧石器時代	千葉県教育委員会
5	坊山遺跡第6文化層の石器	7	旧石器時代	八千代市教育委員会
6	草刈遺跡C区第1文化層の石器	11	旧石器時代	千葉県教育委員会
7	関場遺跡第2地点V層の黒曜石製石器	7	旧石器時代	松戸市教育委員会
8	溜ノ上遺跡V層の黒曜石製石器	5	旧石器時代	松戸市教育委員会
9	野見塚遺跡第Ⅲ文化層の黒曜石製石器	4	旧石器時代	松戸市教育委員会
10	野見塚遺跡第Ⅳ文化層の黒曜石製石器	4	旧石器時代	松戸市教育委員会
11	南三里塚宮原第1遺跡の黒曜石製石器	12	旧石器時代	成田市教育委員会
12	鷹山産黒曜石原石	3	—	黒耀石体験ミュージアム
13	鷹山第1遺跡S地点の石器	45	旧石器時代	長和町教育委員会
14	男女倉産黒曜石原石	1	—	黒耀石体験ミュージアム友の会
15	男女倉遺跡B地点の石器	37	旧石器時代	長和町教育委員会
16	冷山産黒曜石原石	1	—	茅野市尖石縄文考古館
17	渋川遺跡第2地点の石器	25	旧石器時代	茅野市尖石縄文考古館
18	高原山産黒曜石原石	1	—	栃木県立博物館
19	鳥羽新田箆根神社遺跡の石器	18	旧石器時代	栃木県立博物館
20	畑宿産黒曜石原石	1	—	長野県個人
21	上白井西伊熊遺跡第2文化層の石器	4	旧石器時代	群馬県教育委員会
22	柏ヶ谷長ヲサ遺跡第IX文化層の石器	8	旧石器時代	海老名市教育委員会
23	彦八山遺跡第2地点・第4地点の石器	3	旧石器時代	松戸市教育委員会
24	一本桜南遺跡第5文化層の石器	5	旧石器時代	千葉県教育委員会
25	源七山遺跡第3文化層の石器	3	旧石器時代	千葉県教育委員会
26	用田南原遺跡第VI文化層の石器	5	旧石器時代	神奈川県教育委員会
27	松戸市内の遺跡出土の角錐状石器	4	旧石器時代	松戸市教育委員会

II. 縄文時代

◎:重要文化財

No.	資料名	点数	遺跡名	時期	所蔵・保管
1	重要文化財指定書	1	—	—	松戸市教育委員会
2	◎深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
3	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
4	◎台付土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
5	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
6	◎深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
7	◎深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
8	◎深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
9	◎深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
10	◎深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
11	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
12	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
13	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会

14	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
15	◎片口付深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
16	◎片口付小形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
17	◎片口付小形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
19	◎玦状耳飾り	3	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
20	◎石鏃	10	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
21	◎石匙・石鏃・異形石器	6	幸田貝塚	縄文時代前期	松戸市教育委員会
22	深鉢形土器	1	中峠遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
23	深鉢形土器	1	中峠遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
24	深鉢形土器	1	中峠遺跡	縄文時代中期	下総考古学研究会
25	深鉢形土器	1	中峠遺跡	縄文時代中期	下総考古学研究会
26	深鉢形土器	1	中峠遺跡	縄文時代中期	下総考古学研究会
27	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
28	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
29	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
30	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
31	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
32	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
33	深鉢形土器	1	子和清水遺跡	縄文時代中期	松戸市教育委員会
34	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
35	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
36	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
37	鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
38	注口土器と蓋形土製品	5	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
39	注口土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
40	台付鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
41	鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
42	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
43	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
44	深鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
45	鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
46	鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
47	浅鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
48	浅鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
49	浅鉢形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
50	皿形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
51	皿形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
52	注口土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
53	異形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会
54	台付壺形土器	1	貝の花遺跡	縄文時代晩期	松戸市教育委員会
55	土偶	5	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
56	土偶	2	貝の花遺跡	縄文時代後期	松戸市教育委員会
57	土偶	3	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会
58	土偶	2	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会
59	土偶(手・腕)	7	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会
60	土偶(足)	14	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会
61	土版	7	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会
62	石剣・石棒	4	貝の花遺跡	縄文時代後・晩期	松戸市教育委員会

Ⅲ. 弥生・古墳・古代

No	資料名	点数	遺跡名	時期	所蔵・保管
1	弥生土器片	6	大谷口遺跡	弥生時代中期	松戸市教育委員会
2	甕	1	立出し遺跡	弥生時代中期	松戸市教育委員会
3	青銅製品	1	立出し遺跡	弥生時代中期	松戸市教育委員会
4	甕	1	原の山遺跡	弥生時代後期	松戸市教育委員会
5	甕	1	北台遺跡	弥生時代後期	松戸市教育委員会
6	甕	1	稔台遺跡	弥生時代後期	松戸市教育委員会
7	壺片	1	上本郷七畝割遺跡(長者屋敷遺跡)	弥生時代後期	松戸市教育委員会
8	複合口縁壺	1	富山遺跡	古墳時代前期	松戸市教育委員会
9	単口縁壺	1	富山遺跡	古墳時代前期	松戸市教育委員会
10	壺	2	富山遺跡	古墳時代前期	松戸市教育委員会
11	壺片	2	富山遺跡	古墳時代前期	松戸市教育委員会
12	単口縁壺	2	溜ノ上遺跡	古墳時代前期	松戸市教育委員会
13	叩き調整台付甕	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
14	有段高坏	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
15	受け口状口縁甕片	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
16	加飾壺片	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会

17	高坏	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
18	器台	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
19	刻み状口縁台付甕	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
20	大型複合口縁壺	1	諏訪原遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
21	叩き調整甕片	1	上矢切南台遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
22	高坏	1	上矢切南台遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
23	有段高坏	1	上矢切南台遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
24	台付甕	1	上矢切南台遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭	松戸市教育委員会
25	『千葉県松戸市紙敷河原塚古墳調査報告について』(文化財保護委員会提出文書)	1	—	昭和31年1月13日	國學院大學博物館
26	大場磐雄博士の草稿(「彫刻ある紡錘車 出土地名表」)	3	—	昭和30年代	國學院大學博物館
27	河原塚古墳出土遺物実測図	1	—	昭和30年代	松戸市教育委員会
28	刊行された河原塚古墳の報告書(『松戸河原塚古墳』)	1	—	昭和34年12月	松戸市教育委員会
29	直刀	1	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
30	鉄剣	1	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
31	鹿角装刀子	2	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
32	鉄鏃	9	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
33	ガラス製小玉	10	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
34	鉄釘	2	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
35	鉄製鍬先	1	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
36	須恵器 ハソウ片	1	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
37	線刻をもつ紡錘車	1	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
38	滑石製模造品	3	河原塚古墳(河原塚1号墳)	古墳時代中期	松戸市教育委員会
39	鑄造鉄斧	1	行人台遺跡	古墳時代中期	松戸市教育委員会
40	多孔式甕	1	行人台遺跡	古墳時代中期	松戸市教育委員会
41	朝鮮半島系土器片	4	行人台遺跡	古墳時代中期	松戸市教育委員会
42	『理斎隨筆』に描かれた栗山出土の埴輪(志賀理斎著『理斎隨筆』巻6)	1	—	江戸時代後期	松戸市立博物館
43	明治の頃に描かれた伝栗山(立出し)出土の埴輪(『東京人類学会雑誌』第15巻第169号)	1	—	明治33(1900)年刊行/1981年復刻	松戸市立博物館
44	馬形埴輪頭部	1	伝栗山古墳	古墳時代後期	松戸市教育委員会
45	人物埴輪頭部	1	伝栗山古墳	古墳時代後期	松戸市教育委員会
46	円筒埴輪	1	伝栗山古墳	古墳時代後期	松戸市教育委員会
47	須恵器提瓶	1	伝栗山古墳	古墳時代後期	松戸市教育委員会
48	人物埴輪腕部片	1	伝栗山古墳	古墳時代後期	松戸市教育委員会
49	女子人物埴輪	2	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
50	男子人物埴輪	1	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
51	馬形埴輪	1	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
52	家形埴輪	1	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
53	大刀形埴輪	1	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
54	軛形埴輪	1	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
55	朝顔形埴輪	1	栗山古墳群 立出し遺跡(第1地点)	古墳時代後期	松戸市教育委員会
56	銅製の帯金具(跨帯金具)	1	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
57	鉄鎌	1	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
58	燧金(火打鎌)	2	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
59	鉄鏃	1	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
60	軸付紡錘車	1	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
61	黒漆塗り銅製金具付革帯(複製)	1	平城宮・平城京	古代	奈良文化財研究所
62	墨書土器「石世」	1	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
63	墨書土器「得」	1	小野遺跡(第1地点)	古代	松戸市教育委員会
64	墨書土器「八万」	1	小野遺跡(第12地点)	古代	松戸市教育委員会
65	「国厨」銘をもつ骨蔵器(蔵骨器)	1	坂花遺跡	古代	松戸市教育委員会

Ⅳ. 中世

No.	資料名	点数	遺跡名/遺構名	時期	所蔵・保管
1	染付碗片	12	小金城跡(第1地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
2	染付皿片	14	小金城跡(第1地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
3	白磁皿片	3	小金城跡(第1地点)	16世紀	松戸市教育委員会
4	青磁壺片	5	小金城跡(第1地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会

5	青磁盤・大盤片	6	小金城跡(第1地点・馬屋敷)	14世紀	松戸市教育委員会
6	李朝瓶片	10	小金城跡(第8地点)	16世紀	松戸市教育委員会
7	常滑大甕片	8	根木内城跡(第2地点)	中世	松戸市教育委員会
8	天目茶碗片	5	小金城跡(第9地点)・根木内城跡(第1地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
9	灰釉端反皿	9	根木内城跡(第6地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
10	灰釉丸皿	6	根木内城跡(第6地点)	16世紀	松戸市教育委員会
11	漆器杯片	1	根木内城跡(第2地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
12	内耳鍋	2	小金城跡(第6地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
13	カワラケ	10	小金城跡(第1地点)	16世紀	松戸市教育委員会
14	輪宝を描いたカワラケ	4	小金城跡(第1地点・第4地点)	16世紀	松戸市教育委員会
15	石臼片	2	根木内城跡(第1地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
16	鉄札	6	小金城跡(第8地点)	15～16世紀	松戸市教育委員会
17	革札	3	小金城跡(馬屋敷)	15～16世紀	松戸市教育委員会
18	革札復元品	3	小金城跡(馬屋敷)	—	松戸市教育委員会
19	板碑(天文銘)	1	根木内城跡(第5地点)	1532～55年	松戸市教育委員会

V. 「里帰り」コーナー

No	資料名	点数	遺跡名/遺構名	時期	所蔵・保管
1	深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
2	深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
3	深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
4	深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
5	深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
6	小型深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
7	小型深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
8	小型深鉢形土器	1	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
9	石器・石製品	2	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
10	骨角器	15	二ツ木向台遺跡	縄文時代前期	南山大学人類学博物館
11	人骨(男)	1	紙敷遺跡	縄文時代中期	東京大学総合研究博物館
12	中峠遺跡・3次6号人骨レプリカ	1	中峠遺跡	縄文時代中期	松戸市立博物館 (原資料:新潟大学医学部保管)
13	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	奈良文化財研究所
14	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	奈良文化財研究所
15	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	奈良文化財研究所
16	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	奈良文化財研究所
17	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	奈良文化財研究所
18	深鉢形土器	1	幸田貝塚	縄文時代前期	奈良文化財研究所

(4) 学習資料展「昔のくらし探検」

◆展示意図

学習資料展「昔のくらし探検」は、私たちの便利な生活がどのように形づくられてきたのか、そのなかで失われたかつての生活における技術、知恵などを子どもたちに伝えようと開催した。今から80年程前の市内の農家のくらしを出発点にして、衣食住の様々な生活の変化を探検しながら現在の生活に至る、身近な生活の歴史を紹介した。

- ◆主催 松戸市立博物館(企画担当 青木俊也<当館学芸員>)
- ◆会期 平成26年1月15日(水)～3月30日(日)
- ◆会場 松戸市立博物館 企画展示室
- ◆観覧者数 8,827人
- ◆観覧料 無料
- ◆印刷物

チラシ	A4判	10,000枚(委託製作)
ポスター	B2判	10枚(館で印刷)
リーフレット	A3判2つ折	1,500枚(館で印刷)
探検手帳	A4判2つ折	500枚(館で印刷)



◆展示資料

<1>住まう

(1)農家の住まい

資料名	
農家(模型 1/20)	農家の間取り(模型 1/20)

<2>食べる

(1)かまど

資料名				
かまど(2点)(鋳物、模型 1/1)	まき	鉈	火吹き竹	十能
火挟み	火消し壺	七輪(2点)	渋うちわ	炭入れ
付け木	鉄瓶			

(2)ご飯を炊く

資料名				
米櫃	一升瓶(2点)	五号杓(2点)	一合杓	一斗杓
米研ぎ桶	斗かき	羽釜(2点)	あげざる	飯台
飯櫃	杓文字	飯櫃入れ		

(3)おかずを煮炊きする

資料名				
鉄鍋	銅鍋	銅行平鍋	杓子	焼き網
うらごし器	焙烙	せいろ	すりこ木	すり鉢
おろし金(陶製)	おろし金(金属製)	かつお節削り	脚付きまな板	杓文字掛け
あげざる	醤油徳利	酒徳利		

(4)食卓

資料名			
普段のお膳	飯茶碗(2点)	汁椀(2点)	四つ椀
行事のお膳	ちゃぶ台(2点)	土瓶	茶碗

(5)水まわりのくらし

資料名				
井戸車	釣瓶桶	手押しポンプ	手桶	水瓶
柄杓	流し台	洗い桶	しょう油樽(小出し用)	手汲み桶

(6)食べ物の保存

資料名		
蚊帳	甕	漬け物樽(3点)

<3>着る

(1)着物

資料名			
野良着	女の単衣の着物	女の袷の着物と羽織	男の単衣の着物
男の袷の着物と羽織	男子袷の着物と羽織	男子の単衣の着物	

(2)機織り

資料名			
高機	綿繰り	糸車	手織りの袋

(3)裁縫

資料名			
針箱	くけ台	尺差し(2点)	裁ち板

(4)洗濯

資料名			
たらい	金だらい	洗濯板	洗濯石鹸
火のし	鍔	炭火アイロン	張り板

<4>くらす

(1)冬のくらし

資料名			
火鉢(木製)	火鉢(陶製)	五徳	火箸
灰ならし	鉄瓶	炭おこし	十能(炭運び)
炭入れ	やぐら炬燵	行火	湯たんぼ(陶製)
ゆたんぼ(ブリキ製)	掻い巻き布団		

(2)夏のくらし

資料名				
蚊帳	蚊遣りふた	うちわ(3点)	すだれ屏風	すだれ

(3)明かり

資料名			
燭台	行灯	ランプ	電灯
手燭	がんどう	小田原提灯	

(4)しまう

資料名			
行李	箆筒	茶箱	衣桁
布団風呂敷	敷き布団	鏡台	

(5)掃除

資料名			
座敷ほうき	庭ほうき	ぞうきん	バケツ

(6)聞く・見る

資料名	
蓄音機	ラジオ

<5>耕す

資料名			
下肥桶	天秤棒	肥柄杓	万能
平鍬	えぶり(しろならし)	田んぼ(模型)	田下駄
田植え定規	除草機	踏み車	足踏み脱穀機
唐箕	もみならし	万石通し	俵じょうご
米俵	一斗枵	斗かき	箕

◆関連企画

小学生学芸員による展示解説会(会場:企画展示室)

開催日 平成26年2月1日(土)

- ①午前11時00分～午前11時20分 ②午前11時30分～午前11時50分
③午後2時00分～午後2時20分 ④午後2時30分～午後2時50分

対象者 学習資料展観覧者

講師 小学生学芸員

参加人数 ①19人②24人③28人④23人

※P27体験教室「米づくり・展示づくり－小学生学芸員になろう－」の⑩

3 学習支援

(1) 講演会

■館長講演会(会場:講堂)

演 題 「埴輪にみる古墳時代の女性像」
対 象 者 一般
開催月日 平成25年11月3日(日・祝)
内 容 古墳に立て並べられた埴輪のうち、特に女子人物埴輪に見られる髪型や服装、装身具などの表現に着目し、そこから示唆される儀礼の場面や職掌などを論じる中で、古墳時代の女性像とその歴史的 성격に迫った。
講 師 望月幹夫(当館館長)
参加人数 57人

■歴史を語る(会場:講堂)

第1回 演 題 「よみがえる街頭紙芝居の世界－路地裏の文化史－」
対 象 者 一般
開催月日 平成25年5月19日(日)
内 容 一連の絵を見せ、物語る見世物である紙芝居について、その歴史を解説するとともに実際の紙芝居を用いて実演を行い、街頭紙芝居の世界を再現した。
講 師 榎本千賀氏(大妻女子大学教授)
参加人数 45人

第2回 演 題 「ベトナムの発掘現場から:東南アジア考古学の可能性」
対 象 者 一般
開催月日 平成25年6月15日(日)
内 容 日越共同発掘調査のメンバーである山形氏が、ベトナム中部ダナン市近郊のチャンパ王都チャーキュウ城と世界遺産ミーソン遺跡、カムラン湾沿岸で発見された鉄器時代の墓地ホアジェム遺跡について、スライドなどを用いて紹介した。
講 師 山形眞理子氏(金沢大学特任教授)
参加人数 39人

第3回 演 題 「2011年東日本震災の後は首都圏直下の地震にご用心－明治20年の地図で判定する、松戸市の震度分布－」
対 象 者 一般
開催月日 平成25年9月21日(土)
内 容 歴史地震の専門家として、安政大地震と関東大震災のデータをもとに、将来の関東直下大地震の被害を予測した。また豊富な写真を交えながら、市内の危険地域にも言及した。
講 師 都司嘉宣氏(建築研究所 特別客員研究員)
参加人数 71人

■連続講座「学芸員講演会」(博物館友の会共催)(会場:講堂・現地)

各学芸員が専門分野について講演した。

学芸員講演会

開催月日	タイトル	講師	参加者(うち友の会会員)
平成25年5月25日(土)	松戸市70年のあゆみ	柏木一朗	18人(13人)
6月8日(土)	二十歳(はたち)の博物館	山田尚彦	19人(15人)

7月20日(土)	「人生の民俗」を展示する	青木俊也	38人(14人)
9月7日(日)	徳川吉宗と代官小宮山昌世	小高昭一	71人(37人)
11月9日(土)	松戸の旧石器・縄文時代－新しい発見と再評価－	大森隆志	58人(23人)
11月16日(土)	小金城・根木内城イッキ見ツアー	中山文人	39人(11人)
11月23日(土・祝)	松戸の古墳はじめて物語	小林孝秀	58人(25人)

■友の会総会記念講演会(博物館友の会共催)(会場:森のホール21 レセプションホール)

演 題 「幸田貝塚の縄文土器海を渡る－海外における日本考古学－」
 対 象 者 博物館友の会会員、一般
 開催月日 平成25年5月11日(土)
 内 容 1994年に国の重要文化財に指定された松戸市幸田貝塚出土の土器が1998年にフランスで開催された「縄文展」、2006年にカナダで開催された「日本展」に出展された。その経緯や展覧会の様子について写真を交えながら紹介した。
 講 師 望月幹夫(当館館長)
 参加人数 71人(定員100名)

(2) 講座

■古文書を読む(近世入門編)(会場:実習室)

対 象 者 一般
 開催月日 平成26年1月25日(土)～3月22日(土)の隔週土曜日(全5回)
 内 容 古文書解読の初心者を対象に、松戸地域に関わる古文書をテキストに使用して、文字の読み方や時代背景の講義を行い、古文書に親しみながら松戸の近世史を理解してもらうことを目標とした。
 講 師 小高昭一(当館学芸員)
 参加人数 延べ107人

■古文書を読む(近世中級編Ⅰ)(会場:実習室)

対 象 者 一般
 開催月日 平成25年5月26日(日)・6月2日(日)・6月9日(日)・6月16日(日)・6月23日(日)
 (全5回)
 内 容 経験者を対象に古文書を読解し、歴史や文化を学ぶ講座。
 講 師 中野達哉氏(駒澤大学教授)
 参加人数 延べ130人

■古文書を読む(近世中級編Ⅱ)(会場:実習室)

対 象 者 一般
 開催月日 平成26年1月26日(日)・2月23日(日)・3月9日(日)・3月23日(日)(全4回)
 内 容 経験者を対象に古文書を読解し、歴史や文化を学ぶ講座。
 講 師 出口宏幸氏(駒澤大学講師)
 参加人数 延べ97人

■中世史料を読む(会場:実習室)

対 象 者 一般
 開催月日 平成26年1月16日(木)～3月20日(木)の隔週木曜日(全6回)
 内 容 鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」写真版の解読を通じて、直に歴史へ触れる講座。受講者が順

番に発表する形式で、養和元年(1181)3月1日から6月21日までを検討した。
 講師 中山文人(当館学芸員)
 参加人数 延べ134人

■松戸市パートナー講座(講座名:松戸の歴史を学ぼう)

実施年月日	講座内容	主催者	派遣講師	参加者数
平成25年5月10日(金)	「松戸今昔物語」-舟運から発展した松戸-	松戸商工会議所 自由業部会	小高学芸員	35名
平成25年12月17日(火)	河原塚古墳群探訪	河原塚の歴史編纂委員会	小林学芸員	5名

(3) 体験学習

■体験教室「米づくり・展示づくり-小学生学芸員になろう-」(博物館友の会共催)(会場:21世紀の森と広場の水田・実習室等)

対象者 小学校4年生～6年生
 開催月日 ①平成25年5月18日(土)田植え
 ②6月8日(土)田の草取り・勉強会
 ③8月3日(土)案山子づくり
 ④9月28日(土・祝)稲刈り
 ⑤10月12日(土)脱穀
 ⑥11月23日(土・祝)竈でご飯を炊く・展示をつくる(1)
 ⑦12月7日(土)展示をつくる(2)
 ⑧12月8日(日)展示をつくる(3)
 ⑨平成26年1月11日(土)展示をつくる(4)
 ⑩2月1日(土)小学生学芸員展示解説会
 内容 21世紀の森と広場内の水田で、田起こし・代かきから田植え、田の草取り、案山子づくり、刈り取り、脱穀までの一連の米づくりにおける作業を体験し、竈でご飯を炊き試食した。さらにその作業を示したパネルをつくり、学習資料展「昔のくらし探検」のなかで小学生学芸員コーナーとして展示した。なお、この体験教室には博物館友の会有志の協力を受けた。
 講師 青木俊也・中山文人(当館学芸員)
 参加人数 延べ76人(①8人②9人③9人④8人⑤7人⑥9人⑦8人⑧1人⑨8人⑩9人)

■こども体験教室「勾玉をつくろう」(会場:実習室)

※8月10日実施分は、応募者多数のため1回追加した(第5回)。

第1回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年5月3日(金・祝)10時～11時
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 17人(定員15人)
 第2回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年5月3日(金・祝)13時30分～14時30分
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 11人(定員15人)
 第3回 対象者 小学生

- 開催月日 平成25年8月10日(金)10時～11時
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 13人(定員15人)
 第4回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年8月10日(金)13時30分～14時30分
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 12人(定員15人)
 第5回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年8月10日(金)15時～16時
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 10人(定員15人)
 内容 軟らかい石をみがいて勾玉づくりを体験してもらった。

■こども体験教室「土鈴をつくろう」(会場:実習室)

※午前・午後の計2回を予定していたが、応募者多数のため、第3回目を設けた。

- 第1回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年8月3日(土)10時～11時
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 15人(定員15人)
 第2回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年8月3日(土)13時30分～14時30分
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 12人(定員15人)
 第3回 対象者 小学生
 開催月日 平成25年8月3日(土)15時～16時
 講師 大森隆志・小林孝秀(当館学芸員)
 参加人数 3人(定員15人)
 内容 縄文時代の土鈴作りをとおして、当時の生活技術の一端を知ってもらった。

■こども体験教室「郷土玩具をつくろう」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

- 第1回 対象者 小学校3年生～6年生(保護者1名同伴)
 開催月日 平成25年8月17日(土)10時～12時
 講師 山田尚彦(当館学芸員)
 博物館友の会有志
 参加人数 6人(定員10人)
 第2回 対象者 小学校3年生～6年生(保護者1名同伴)
 開催月日 平成25年8月23日(金)10時～12時
 講師 山田尚彦(当館学芸員)
 博物館友の会有志
 参加人数 8人(定員10人)
 内容 江戸時代からある郷土玩具「パタパタ」作成を体験してもらった。

■体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

- 対象者 一般
 開催月日 ①平成26年1月15日(水)糸紡ぎ
 ②1月17日(金)機織り
 講師 青木俊也(当館学芸員)
 はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
 参加人数 延べ16人(①8人②8人)

内 容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。

■体験教室「裂き織りをしてみませんか」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

※各日、午前に3回、午後に2回(9時45分～10時35分、10時35分～11時25分、11時25分～12時15分、13時～13時50分、13時50分～14時40分)、合わせて5回ずつ行った。

第1回～第5回

対 象 者 一般
開催月日 平成26年2月12日(水)
講 師 青木俊也(当館学芸員)
はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
参加人数 延べ10人(各回定員2人)

第6回～第10回

対 象 者 一般
開催月日 平成26年2月13日(木)
講 師 青木俊也(当館学芸員)
はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
参加人数 延べ10人(各回定員2人)

第11回～第15回

対 象 者 一般
開催月日 平成26年2月14日(金)
講 師 青木俊也(当館学芸員)
はたくさの会会員(博物館友の会サークル)
参加人数 延べ10人(各回定員2人)
内 容 擦り切れたりして使えなくなった布を裂いて新しい布に再生する先人の知恵を体験した。

■昔のくらし体験教室「自分でつくる糸と布」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

対 象 者 4年生以上の小学生
開催月日 ①平成25年7月30日(火)糸紡ぎ
②8月2日(金)糸染め下処理
③8月4日(日)糸染め
④8月6日(火)機織り
講 師 青木俊也(当館学芸員)
はたくさの会(博物館友の会サークル)
参加人数 延べ32人
内 容 綿から糸車を使って糸を紡ぎ、高機で織った。

■昔のくらし体験教室「風呂敷を使ってみよう」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

第1回～第9回

対 象 者 学習資料展「昔のくらし探検」観覧者
開催月日 ①平成26年1月18日(土)②25日(土)③2月15日(土)④22日(土)⑤3月1日(土)
⑥8日(土)⑦15日(土)⑧22日(土)⑨29日(土)
講 師 博物館友の会有志
参加人数 延べ378人(①62人②48人③50人④35人⑤16人⑥42人⑦30人⑧34人⑨61人)
内 容 四角い物、丸い物、瓶を風呂敷で包んで、昔のくらしの一端を体験した。

■昔のくらし体験教室「天秤棒で桶を担いでみよう」(博物館友の会共催)(会場:実習室)

第1回～第9回

対 象 者 学習資料展「昔のくらし探検」観覧者

開催月日	①平成26年1月18日(土)②25日(土)③2月1日(土)④22日(土)⑤3月1日(土) ⑥8日(土)⑦15日(土)⑧22日(土)⑨29日(土)
講師	博物館友の会有志
参加人数	延べ321人(①53人②42人③38人④28人⑤7人⑥35人⑦22人⑧35人⑨61人)
内容	天秤棒で桶を担いで、昔のくらしの一端を体験した。

(4) 映像シアター・プレイルーム

■ミュージアムシアター

公共上映の権利の有する映像ソフトを月替わりで毎日、講堂において定時上映した。ただし講演会等の開催時には、上映を中止した。

上映時間 火～金曜日 午後1時15分・3時15分
土・日・祝日 午前11時・午後1時15分・3時15分

※6月24日～7月1日は燻蒸に伴う休館のため、上映していない。

上映日	映像タイトル	上映日数	観覧者数	1日平均
H25/4/1～30	送り大師－東葛印旛大師講の人々－※当館制作	24日	334人	13人
5/1～31	港が築いた日本の国際化－横浜・横須賀の近代化遺産－日本の近代化遺産 第7巻	26日	375人	14人
6/1～30	倉橋の弥勒三番叟(千葉県指定無形民俗文化財シリーズ)	20日	200人	10人
7/1～31	遊び場のない子どもたち 昭和30年代の日本・家族の生活 都会の子どもたち編	26日	210人	8人
8/1～31	一億玉砕の道－日ソ終戦工作－NHKスペシャル ドキュメント太平洋戦争 第6集	27日	404人	14人
9/1～30	開拓者魂の証し－北海道の近代化遺産－日本の近代化遺産 第8巻	24日	319人	13人
10/1～31	森浩一が語る日本の古代 文字と考古学	27日	296人	10人
11/1～30	森浩一が語る日本の古代 特別編 考古学の楽しみ	26日	276人	10人
12/1～26	合掌の里に念仏が聞こえる－富山県五箇山地方－ふるさとの伝承 第9巻	22日	242人	11人
H26/1/5～31	おやじの日曜日 昭和30年代の日本・家族の生活 都会のくらし編	22日	274人	12人
2/1～28	遙かなるコンブロード－北海道から沖縄へコンブの辿った道－「日本の味のルーツを探る」シリーズ 第2巻	23日	199人	8人
3/1～31	バスピオ－噴火の爪痕－ナショナルジオグラフィックビデオ	25日	295人	11人
H25/4/1～H26/3/31の合計値・平均値		292日	3424人	11人

■プレイルーム

年齢を問わず、いつでも来館者が楽しめる場所として無料で開放している。体験プログラムを手直しして、①やってみようアンギン編み②つくってみようコースター③着てみようアンギン編みの服④つかってみよう糸車の4種類に整理した。

平成25年度利用者総数 9,193人

(5) 館内公開

対象者	一般
開催月日	平成25年5月5日(日・祝)・8月24日(土)10:00~11:00
内容	博物館の多様な活動を理解していただくため、通常は非公開のバックヤード(車庫、荷解梱包室、燻蒸室、学芸員室、スタジオ、機械室、収蔵庫)を紹介・解説した。
講師	大森隆志・小高昭一(当館学芸員)
参加人数	延べ21人(定員15人)

(6) ガイドツアー(常設展示解説)

「人類の登場」から「都市へのあゆみ」まで2名の展示解説員によるリレー方式の解説会を毎日午前10時と午後2時から行った(解説時間約30分間)。

なお、団体観覧者においては適宜開催し、平成25年度は55回行い361人が参加した。

(7) 情報提供

■閲覧コーナー

博物館利用者の学習支援のため、当館の購入図書及び関係諸機関との交換図書の閲覧サービスを行なっている。蔵書の一部は開架で提供している。

- ・蔵書数(平成26年3月31日現在)

開架図書冊数	1,103冊
閉架図書冊数	35,190冊
- ・閉架図書の利用状況(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

利用人数:	46人
利用冊数:	104冊
- ・視聴覚資料数(平成26年3月31日現在)

ビデオテープ	408巻
C D	84枚
D V D	45枚

■刊行物

平成25年度の刊行物はずぎの通りである。

- ・松戸市立博物館年報 第20号
A 4版56頁(本文56頁) 500部 平成25年8月31日
- ・特別展 松戸の発掘60年史-市内の遺跡を再検討-
A 4版108頁(本文107頁) 1,500部 平成25年10月1日
- ・松戸市立博物館紀要 第21号
A 4版106頁(本文93頁) 800部 平成26年3月31日
- ・松戸市立博物館調査報告書5 農村松戸の民俗-1960年代調査の記録-
A 4版160頁(本文159頁) 1,000部 平成26年3月31日

■ミュージアムショップ

受付横にミュージアムショップを開設し、刊行物とミュージアムグッズを販売している。

ミュージアムグッズ			
はがき	10種類	各80円	クリアホルダー3枚セット 100円
テレホンカード	4種類	各700円	ミニクリアホルダー(景清・阿沙丸・土偶)3枚セット 各200円
植輪ぬいぐるみキーホルダー(馬・人)		各350円	500円
土鈴セット		200円	一筆箋(シルクロード・朱印状) 各300円
メモ帳		100円	縄文土器レプリカ 深鉢形土器3種類 9,000円
虚無僧ストラップ(青・赤・緑)		各750円	~10,000円
虚無僧錦絵・絵はがきセット		350円	クリアホルダー(コシッキー1体・3体) 各150円
図		録	
改訂版 常設展示図録(平成16年度)		1,500円	企画展 戦後松戸の生活革新 完売
開設記念展 松戸写真館		完売	-新しい暮らし方へのあこがれ-(平成12年度)
-カメラがとらえた松戸の人々-(平成5年度)			企画展 中世の東葛飾 1,200円
特別展 縄文土器の世界(平成5年度)		1,000円	-いのり・くらし・まつりごと-(平成13年度)
企画展 救いの民俗		完売	企画展 弥生人の脳発見! 完売
-地獄極楽冥土の旅-(平成6年度)			-とっとり青谷上寺地遺跡展-(平成14年度)
特別展 馬と牧		完売	企画展 はにわの十字路 1,000円
-かつて松戸は牧場だった-(平成6年度)			-古代東国の交流と地域性-(平成14年度)
企画展 稲と魚		900円	特別展 川の道 江戸川(平成15年度) 1,000円
-水田をめぐる漁・猟・採集-(平成7年度)			企画展 昔のくらし探検<松戸版>(平成16年度) 500円
特別展 古墳時代の飾り馬		完売	企画展 ペルシャ文明の曙 1,000円
-馬利用のはじまりをさぐる-(平成7年度)			-文明の基層を探る-(平成17年度)
企画展 小金城主高城氏(平成8年度(平成13年度再版))		1,000円	企画展 戦国の城をさぐる 1,000円
特別展 シルクロードとガンダーラ(平成8年度)			-松戸市根本内歴史公園開園記念-(平成18年度)
		1,500円	企画展 大名の旅 1,000円
特別展 福神の世界(平成9年度)		完売	-本陣と街道-(平成19年度)
特別展 ネアンデルタール人の復活(平成10年度)		1,000円	特別展 縄文時代の東・西(平成20年度) 1,000円
			企画展 人生儀礼の世界(平成21年度) 1,000円
企画展 水戸道中		完売	企画展 湯浅喜代治 考古コレクション 1,000円
-宿場と旅人-(平成10年度)			-夢を追った70年-(平成22年度)
特別展 貝塚を考える(平成10年度)		1,200円	企画展 東日本の古墳と渡来文化 1,000円
			-海を越える人とモノ-(平成24年度)
			特別展 松戸の発掘60年史 1,000円
			-市内の遺跡を再検討-(平成25年度)
紀		要	
松戸市立博物館紀要 第1号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第12号 500円
松戸市立博物館紀要 第2号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第13号 400円
松戸市立博物館紀要 第3号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第14号 500円
松戸市立博物館紀要 第4号		700円	松戸市立博物館紀要 第15号 500円
松戸市立博物館紀要 第5号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第16号 600円
松戸市立博物館紀要 第6号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第17号 500円
松戸市立博物館紀要 第7号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第18号 500円
松戸市立博物館紀要 第8号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第19号 400円
松戸市立博物館紀要 第9号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第20号 500円
松戸市立博物館紀要 第10号		1,000円	松戸市立博物館紀要 第21号 600円
松戸市立博物館紀要 第11号		500円	
資料集・報告書			
松戸市立博物館歴史資料集1		700円	松戸市立博物館歴史資料集2 700円
東漸寺所蔵資料目録			青木源内家所蔵資料目録追加
松戸市立博物館報告書1		5,400円	松戸市立博物館報告書4 2,100円
松戸の三匹獅子舞(VTR含む)			松戸旧宿場町建築物調査報告書
松戸市立博物館報告書2		1,200円	松戸市立博物館映像記録VTR 完売
縄文時代以降の松戸の海と森の復元			送り大師 東葛飾印旛大師講の人々
松戸市立博物館報告書3		完売	
松戸市民家調査報告書			
松戸市史			
松戸市史 上巻		完売	松戸市古文書目録(三)「本土寺文書他」 2,000円
松戸市史 中巻「近世」		5,500円	松戸市古文書目録(四)「秋谷家文書」 2,500円
松戸市史 下巻(一)「明治」		4,000円	松戸市史考古資料集1 300円
松戸市史 下巻(二)「大正・昭和」		3,900円	大谷口遺跡の土師器と須恵器
松戸市史資料編(一)「大熊家文書」		2,800円	松戸市史考古資料集2 300円
松戸市史資料編(二)「近世諸家文書」		完売	千駄堀寒風台遺跡出土遺物を中心とする考古資料
松戸市史資料編(三)「萬満寺史料」		3,500円	松戸市史考古資料集3 300円
松戸市史資料編(四)「本土寺史料」		5,500円	関場遺跡第2地点出土旧石器資料報告
松戸市史資料編(五)上「秋谷家文書」		8,050円	寒風台遺跡出土石器再整理報告
松戸市史資料編(五)下「秋谷家文書」		7,500円	

松戸市史資料編(六)「東漸寺史料」	5,000円	松戸市史考古資料集 4 上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を 中心とする考古資料	400円
松戸市古文書目録(一)「諸家文書」	1,100円		
松戸市古文書目録(二)「諸家文書」	1,500円		

(8) 博物館実習

募集要項を「広報まつど」及び当館ホームページ(年報奥付にアドレスを記載)に掲載して募集を行なったところ8名の応募があり、書類審査の結果8名全員を受け入れることにした。実習生の氏名・所属及び実習内容は以下のとおりである。

平成25年度博物館実習生

no.	班別	大学名	氏名	学部学科専攻分野
1	第1班	学習院大学	糸 賀 優 里	文学部史学科日本古代史専攻
2		明治大学	大 平 薫	文学部史学地理学科考古学専攻
3		千葉大学	杉 田 佳乃子	教育学部小学校教員養成課程社会科撰修
4		お茶の水大学	平 手 杏 奈	生活学部人間生活学科生活文化学講座
5	第2班	東海大学	中 村 麻梨子	文学部アメリカ文明学科
6		大正大学	平 栗 優 美	文学部歴史学科文化財コース
7		学習院女子大学	三 浦 ともみ	大学院国際文化交流研究科修士課程
8		東京成徳大学	山 口 花 菜	人文学部日本伝統文化学科

(1) 合同実習

月日	曜日	午前	午後
7月28日	日	実習内容説明、館内バックヤード見学	展示見学、質疑応答

(2) 班別実習

1班 8月1日(木)～8月7日(水)

月日	曜日	午前	午後
8月1日	木	資料(史料)整理・取扱いについて	流山市立博物館見学
8月2日	金	展示について(資料展解説・展覧会の企画・展示方法など)	こども体験教室「土鈴をつくろう」準備
8月3日	土	こども体験教室「土鈴をつくろう」補助	こども体験教室「土鈴をつくろう」補助
8月4日	日	保存科学と測定機材／ワークシートの作成・説明	ワークシートの作成
8月5日	月	休館日	休館日
8月6日	火	ワークシートの講評	来館者空間の自由研究
8月7日	水	来館者空間に関する研究発表	まとめ・レポート執筆

2班 8月8日(木)～8月14日(水)

月日	曜日	午前	午後
8月8日	木	資料(史料)整理・取扱いについて	流山市立博物館見学
8月9日	金	展示について(資料展解説・展覧会の企画・展示方法など)	こども体験教室「勾玉をつくろう」準備
8月10日	土	こども体験教室「勾玉をつくろう」補助	こども体験教室「勾玉をつくろう」補助
8月11日	日	保存科学と測定機材／ワークシートの作成・説明	ワークシートの作成
8月12日	月	休館日	休館日
8月13日	火	ワークシートの講評	来館者空間の自由研究
8月14日	水	来館者空間に関する研究発表	まとめ・レポート執筆

(9) 教員・生徒の職場勤労体験の受け入れ

学校から個別に依頼を受けて、博物館の活用等を目的とした小学校教員対象の体験研修と中学・高等学校生徒の勤労観・社会観を育成するための職場体験学習を行った。

[教員]

＜小学校教員初任者研修＞

平成25年8月22日(木) 郷田りつ子(市立南部小学校)

平成26年1月18日(土) 小野田綾乃(市立貝の花小学校)

[高校生]

＜インターンシップ＞

平成25年7月27日(土) 矢野稔貴(県立小金高等学校1年)

[中学生]

平成25年10月23日(木) 和光純輝・松本一優 (市立第四中学校2年)

平成25年11月15日(金) 高橋あかり・蛭原瑞葉(市立牧野原中学校2年)

平成25年11月22日(金) 藪野怜奈・中村夏香 (市立小金南中学校2年)

平成25年11月28日(木) 丸山あゆみ・石川 歩(市立河原塚中学校2年)

4 調査・研究

(1) 松戸市古文書調査(委託)

[概要]

博物館における展示の基礎資料を得るため、松戸市古文書調査団を組織し、平成2年度より継続して市内旧家に保存されてきた古文書を調査している。

今年度は、松戸市秋山(旧秋山村)の渡辺知家家文書を調査し840点分の仮目録を作成した。

[組織]

団 長:所理喜夫(駒澤大学名誉教授)

幹 事:中野達哉(駒澤大学教授)・出口宏幸(駒澤大学講師)

調 査 員:小泉雅弘(駒澤大学准教授)・小松寿治(板橋区郷土資料館)・浅倉直美(駒澤大学講師)・平野明夫(國學院大学非常勤講師)・吉田政博(板橋区教育委員会)・大瀧聖子(東京大学史料編纂所)・鈴木雅晴(駒澤大学講師)・上田良知(神奈川県立公文書館)・高木謙一(豊島区立郷土資料館)・中村陽平(板橋区教育委員会)ほか

調査補助員:小路口復(駒澤大学生)ほか

(2) 研究員の活動

中野達哉(駒澤大学文学部教授)

研究テーマ「江戸近郊における旗本知行所支配の研究」

旧大谷口村名主大熊家文書(館蔵資料)を素材に、江戸近郊に位置した松戸市域の旗本知行所(農村)の構造的特質を解明することを目的とする。特に、関東地方に分散する旗本知行所の中で、江戸旗本屋敷から一番近い江戸近郊農村が領主(旗本)と全知行所農民の中間に立たされた特質・役割等を分析・考察した。

(3) 学芸員の活動

小高 昭一

専門分野:日本近世史

研究テーマ:「近世村落成立史の研究」

「水戸道中・金町松戸関所の研究」

[年間活動]

・講演会講師 学芸員講演会④「徳川吉宗と代官小宮山昌世—小金牧の享保改革 その3」(平成25年9月7日)

・講座講師「古文書を読む(近世入門編)」担当(全5回・平成26年1月25日～3月22日)

[外部機関等協力活動]

講演会講師「松戸の歴史を学ぼう 「松戸今昔物語」—舟運から発展した松戸—」

(松戸商工会議所自由業部会 会場:松戸商工会議所(平成25年5月10日(金)16:00～17:00)(パートナー講座)

[執筆]

・「松戸市立博物館所蔵 寛永十二年六月廿四日付け伊奈忠治書状—金町松戸関所関係資料—」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日

[所属学会]

日本歴史学協会、地方史研究協議会(常任委員)、日本史研究会、関東近世史研究会、房総文化懇話会

山田 尚彦

専攻分野:日本民俗学・文化人類学

研究テーマ:「地域社会における民俗芸能の継承と葛藤に関する研究」
「近代知識の大衆化に関する歴史社会学的研究」

[年間活動]

- ・市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「松戸市立博物館20年のあゆみ」(平成25年4月27日(土)～6月9日(日))担当
- ・こども体験教室「郷土玩具をつくろう」講師(2回・平成25年8月17日、8月23日)
- ・講演会講師 学芸員講演会②「二十歳(はたち)の博物館」(平成25年6月8日)

[外部機関等協力活動]

- ・千葉大学非常勤講師「博物館資料論A」(平成25年10月1日～平成26年3月31日)

[執筆]

- ・「失敗しない郷土玩具製作マニュアルの試作－パタパタをめぐる－」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日

[所属学会]

日本文化人類学会、日本民具学会、相模民俗学会、地方史研究協議会、文化資源学会、日本生活学会、日本風俗史学会、日本家政学会、日本写真学会、農耕文化研究振興会、メディア史研究会、情報知識学会、文化財保存修復学会、American Anthropology Association

中山 文人

専門分野:日本中世史

研究テーマ:「関東中世史の研究」

[年間活動]

- ・特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」共同担当(平成25年10月5日～11月24日)
- ・講座講師「中世史料を読む」(全6回・平成26年1月16日～3月27日)
- ・昔のくらし体験教室講師「米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」(10回)
- ・講演会講師 学芸員講演会⑥「小金城・根木内城 イッキ見ツアー」(見学会:小金城跡・根木内城跡周辺(平成25年11月16日))
- ・松戸市史上巻改訂事業

[外部機関等協力活動]

- ・松戸市立博物館友の会特別見学会「小金城・根木内城 イッキ見ツアー」(平成25年10月17日)

[執筆]

- ・「本土寺過去帳天正本補遺－未公開写本による復元の試み－」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日

[所属学会]

歴史学研究会、日本史研究会、地方史研究協議会

青木 俊也

専門分野:民俗学

研究テーマ:「戦後生活史展示の研究」「葬墓習俗の研究」

[年間活動]

- ・昔のくらし体験教室講師「自分でつくる糸と布」(4回)
- ・昔のくらし体験教室講師「米づくりと展示づくり－小学生学芸員になろう－」(10回)
- ・体験教室講師「自分でつくる糸と布」(2回)
- ・体験教室講師「裂き織りをしてみませんか」(3回)
- ・講演会講師 学芸員講演会③「「人生の民俗」を展示する」(平成25年7月20日)

[外部機関等協力活動]

- ・立教大学兼任講師 学校・社会教育講座「民俗学」1.2(平成25年4月1日～平成26年3月31日)
- ・神奈川大学大学院歴史民俗資料学専攻科非常勤講師「博物館民俗資料学特論」「博物館歴史資料学特論」(平成25年9月1日～平成26年3月31日)
- ・戦中・戦後期の都市横浜に関する連携事業 第6回研究会講師(横浜市都市発展記念館など主催)(発表題目)「現代史展

示『常盤平団地の誕生』の23年間－歴史系博物館における高度経済成長期へのアプローチ－ 平成25年11月28日

[執筆]

- ・「現代史展示『常盤平団地の誕生』の新しい姿－展示リニューアルのための基礎的な考察－」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日
- ・「『農村松戸の民俗－1960年代調査の記録－』から学ぶ『農村松戸の民俗－1960年代調査の記録－』」松戸市立博物館調査報告書第5号 平成26年3月31日
- ・『あるく民俗・あるく展示』＜神奈川大学評論ブックレット36号＞平成25年4月10日

[所属学会]

日本民俗学会、日本民具学会、地方史研究協議会、日本展示学会

大森 隆志

専門分野:考古学

研究テーマ:「中世地下式坑の考古学的研究」

[年間活動]

- ・特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」共同担当(平成25年10月5日～11月24日)
- ・講演会講師 学芸員講演会⑤「松戸の旧石器・縄文時代－新しい発見と再評価－」(平成25年11月9日)
- ・松戸市史上巻改訂事業

[執筆]

- ・(共編著)『松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－』松戸市立博物館(平成25年10月5日)
- ・「子和清水遺跡出土の加曾利E I式土器－朝顔形(ラッパ状)深鉢形土器について－」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日
- ・「野見塚遺跡」「溜ノ上遺跡」「関場遺跡第2地点」『蛍光X線分析装置による黒曜石製遺物の原産地推定－基礎データ集<3>－』明治大学文学部(平成26年3月31日)

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、縄文時代文化研究会、山梨県考古学協会、文化経済学会<日本>、日本アートマネジメント学会、房総中近世考古学研究会

柏木 一郎

専門分野:日本近代史

研究テーマ:「近代日本政治外交史・近代日本軍事史の研究」

[年間活動]

- ・市政施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「写真でみる松戸市の70年」(平成25年4月27日(土)～6月9日(日)担当)
- ・講演会講師 学芸員講演会①「松戸市70年のあゆみ」(平成25年5月25日)

[外部機関等協力活動]

- ・法政大学通信教育部兼任講師「日本近代史」(平成25年4月1日より7月31日)
- ・法政大学キャリアデザイン学部兼任講師「教職日本史」(平成25年4月1日より26年3月31日)

[執筆]

- ・史料編集・解題「伊藤博文文書 第95-98巻 秘書類纂 兵政」(伊藤博文文書研究会監修 ゆまに書房 平成25年11月30日)
- ・史料紹介「東京大学史料編纂所蔵 北島秀朝事蹟」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日

[所属学会]

歴史学会、明治維新史学会、東アジア近代史学会、日本台湾学会、洋学史学会、法政大学史学会

小林 孝秀

専門分野:日本考古学

研究テーマ:「古墳時代東国社会の研究」

[年間活動]

- ・こども体験教室「勾玉をつくろう」講師(4回、平成25年5月3日、8月10日)

- ・こども体験教室「土鈴をつくろう」講師(2回、平成25年8月3日)
- ・特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」共同担当(平成25年10月5日～11月24日)
- ・講演会講師 学芸員講演会⑦「松戸の古墳はじめて物語」(平成25年11月23日)
- ・市民パートナー講座「探訪河原塚古墳群」講師(平成25年12月17日、場所:河原塚古墳群現地にて)
- ・松戸市史上巻改訂事業

[外部機関等協力活動]

- ・日本考古学協会2014年度新入会員審査委員
- ・市川市史編さん委員会調査員

[執筆]

- ・「太平洋沿岸の海上交通と横穴式石室－千葉県匝瑳市関向古墳の石室構造から－」『駒澤考古』第38号(駒澤大学考古学研究会、平成25年5月)
- ・「千葉だより 地域博物館の試みと展望－「東日本の古墳と渡来文化」展から－」『考古学研究』第60巻第1号(考古学研究会、平成25年6月)
- ・(共編著)特別展図録『松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－』松戸市立博物館(平成25年10月5日)
- ・(共著)「千葉県松戸市竹ヶ花古墳の再検討」『松戸市立博物館紀要』第21号 松戸市立博物館 平成26年3月31日

[所属学会]

日本考古学協会、日本考古学会、考古学研究会、東北・関東前方後円墳研究会、茨城県考古学協会、韓国考古学会、嶺南考古学会

(4) 市史編さん業務

松戸市史は、昭和36年11月、「松戸市史 上巻」を発行し、その後、近代編としての「松戸市史 下巻(一)」、「同(二)」を先に発行し、最終的に昭和53年3月近世編を「松戸市史 中巻」として刊行し市史の通史編を完結した。

この間、発掘・発見された市史資料は膨大な量となり、資料的にも、学問的にも市史全体を見直す時期が到来した。

これにより、平成10年11月、松戸市長より松戸市史上巻改訂についての諮問が出され、松戸市史編さん委員会は翌平成11年11月答申書を市長に提出。松戸市史上巻改訂作業に着手した。

平成21年、松戸市史上巻改訂事業予算が計上され、平成26年度の刊行を目指し、本格的に作業に入った。

[作業内容]

- | | |
|--------|--|
| 平成21年度 | 市史編さん方針の決定
原始・古代部会、中世部会各部会員の決定
執筆者の決定
考古・古代・中世資料目録等作成 |
| 平成22年度 | 考古資料調査(含県外)
古代・中世資料調査(含県外)
写真撮影・図版作成 |
| 平成23年度 | 補充調査
写真撮影・図版作成
市史原稿作成 |
| 平成24年度 | 写真撮影・図版作成
市史原稿作成 |
| 平成25年度 | 原稿編集
図版等調整・許諾 |

5 資料の収集と利用

(1) 資料の収集

一次資料

受贈

- ・小松和央 様 「字一筆限地引絵図 大字五香六実」 ほか7点①
- ・久我五男 様 「大全早字引節用集」 ほか22点②
- ・竹内 哲 様 「松戸市役所衛生課」 看板1点③
- ・安蒜 修 様 「借入金出入訴状(写)」 ほか4点

購入

- ・錦絵「富士三十六景 下総小金原」(歌川広重) 1枚



①



②

二次資料

受贈図書	35冊	図書交換機関等	301ヶ所
購入図書	87冊	購入逐次刊行物	44タイトル
交換図書	487冊	受贈及び交換逐次刊行物	236タイトル



③

(2) 博物館資料の貸出

	貸出期間	借用者	利用形態	目的	貸出資料・点数
1	H25.10.上旬～ 12.下旬	日野市立新選組のふるさと歴史館	資料貸出	特別展「日野市の半世紀」展で展示するため	多摩団地関係資料7点
2	H25.9.27～10.4	松戸市立中部小学校	資料貸出	校内授業研究会で使用するため	米俵1点
3	H26.1.16～5.23	千葉県北西部地区文化財行政担当者連絡協議会	資料貸出	「文化の絆」展で展示をするため	境外Ⅱ遺跡出土土器ほか6点

(3) 博物館資料の特別利用 (平成25年4月1日～26年3月31日)

No.	利用日	利用者	利用形態	目的	利用資料・点数
1	平成25年4月10日	(株)アッシュ	写真利用	洋泉社「たのしい「縄文」入門」掲載のため	常設展示図録掲載「縄文のムラ」ほか1点
2	6月5日	千葉県報道広報課	写真利用	「千葉県の歴史」を紹介するパネル作成のため県民だより」6月号に掲載するため	「松戸市史」下巻(一)掲載「松戸渡船場」1点
3	5月23日	千葉銀行広報CSR部	写真利用	行内報「ちばぎん」5月号に掲載するため	野外展示「縄文の森の復元竪穴住居」1点
4	5月29日	個人	写真撮影	地図を訂正のため	旧和紙公園「栗山 谷津」1点
5	6月3日	専修大学学長室企画課	写真利用	「社会知性フォーラム」開催に伴うちらし作成のため	「松戸の里」(『江戸名所図会』二十)1点
6	6月14日	共同テレビジョン	ビデオ撮影	BSジャパン「昭和は輝いていた」制作のため	常設展示室「都市へのあゆみ」コーナー撮影
7	7月1日	松戸市明第2東地区社会福祉協議会	写真利用	広報紙「あきら東」に掲載するため	「旧街道 竹ヶ花踏切」1点
8	6月1日	校倉書房	写真利用	佐藤博信『中世東国の権力と構造』に掲載するため	問宮家文書(足利義氏書状)1点
9	6月15日	個人	写真利用	ホームページ掲載のため	「新松戸駅」ほか4点
10	6月23日	読売新聞東京本社	写真利用	読売新聞に掲載するため	「二十世紀梨原樹」ほか1点
11	7月12日	柏書房	写真撮影	『戦国大名の古文書』東日本編に掲載するため	3月28日(永禄9年)付、足利義氏書状ほか1点
12	7月19日	個人	資料調査	論文執筆のため	八ヶ崎遺跡出土土偶1点

13	7月21日	松戸宿坂川献灯まつり実行委員会	写真利用	写真展開催のため	「葛飾橋渡り初め」ほか23点
14	7月25日	㈱マブチモーター	写真利用	社内報に掲載するため	野外展示「縄文の森の復元竪穴住居」1点
15	平成26年4月～28年3月	NHKエデュケーショナル	写真利用	放送大学「住まい論(10)」第7回で放送するため	常設展示室「都市へのあゆみ」展示風景2点
16	平成26年4月1日	大修館書店	写真利用	『(仮) カラーワイド国語便覧』に掲載するため	常設展示室「都市へのあゆみ」展示風景1点
17	2月25日	ユニフォトプレスインターナショナル	写真利用	帝国書院「最新日本史図説」に掲載するため	石皿(子と清水貝塚出土)写真1点
18	平成25年10月17日	土浦市上高津貝塚ふるさと歴史の広場	写真利用	「古代の火葬と祈り」展パネル及びパンフレットに掲載するため	板花遺跡出土「国厨」銘墨書土器2点
19	平成26年2月25日	ユニフォトプレスインターナショナル	写真利用	帝国書院「最新日本史図説」に掲載するため	常設展示室「都市へのあゆみ」展示風景1点
20	平成25年11月7日	個人	映像複写	教育・研究の資料とするため	「三匹獅子舞総集編」3点
21	平成26年2月末日	グループコロンブス	写真利用	学研教育出版『絵でわかる社会科事典⑥』に掲載するため	常設展示室「都市へのあゆみ」展示風景1点
22	平成25年12月21日	個人	写真撮影	調査研究のため	「河原塚1号墳出土太刀」ほか2点
23	平成25年12月20日～21日	個人	資料調査	調査研究のため	貝の花遺跡出土土器27点
24	平成26年3月1日	個人	写真利用	「河原塚史」編纂のため	『松戸市史』上巻561頁右の図版
25	2月19日	松戸市立博物館友の会	写真利用	古文書部会テキスト作成のため	「御用留」(旧大熊家文書 安政3年)
26	平成25年1月31日	KADOKAWA	写真利用	「松戸ウォーカー」(1月31日号)に掲載するため	八ヶ崎「水戸街道」道標写真ほか3点
27	平成26年1月9日	富士見市立水子貝塚資料館	資料調査	企画展開催調査のため	子と清水貝塚57号住居跡出土土器1点
28	1月31日	KADOKAWA	写真利用	「松戸ウォーカー」(1月31日号)に掲載するため	常盤平団地2DK(復元ジオラマ)
29	1月24～31日	文部科学省学校健康教育課	写真利用	給食の歴史年表に掲載するため	常設展示室常盤平団地2DK室内写真3点
30	3月25日	鎌ヶ谷市郷土資料館	写真利用	『鎌ヶ谷市史』上巻(改訂版)に掲載するため	復元竪穴住居写真ほか3点
31	4月1日	個人	写真利用	「河原塚史」編纂のため	常設展示室「河原塚1号墳主体部」(復元模型)1点
32	2月2日	エンネットワーク	写真利用	テレビ東京「昭和平成ヒット商品全部見せます」で放送するため	常設展示室「都市へのあゆみ」展示風景1点
33	3月31日	個人	写真利用	『小金地域の歴史』に掲載するため	幸田貝塚451号住居貝層断面写真ほか14点
34	2月6日	個人	映像複写	調査研究のため	「三匹獅子舞概要編」1点
35	3月25日	鎌ヶ谷市郷土資料館	図版転載	『鎌ヶ谷市史』上巻(改訂版)に掲載するため	『松戸市立博物館紀要』第1号11頁第3図1点
36	3月6日	地人館	写真撮影	小峰書房「昔のくらしと道具」第4巻に掲載するため	常設展示室常盤平団地2DK室内1式
37	2月23日	個人	映像複写	調査研究のため	VTR「三匹獅子舞概要編」3点

(4) 資料の燻蒸等

[収蔵庫燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。

期 間:平成25年6月24日(月)～7月1日(月)

対 象:第1収蔵庫～第4収蔵庫

委 託 先:関東港業(株)

使用薬剤:酸化プロピレン製剤(商品名アルプ)

[燻蒸庫による資料燻蒸]

殺虫・殺卵・殺菌を目的とする燻蒸を行った。(第4回だけ殺虫を目的とした)

期間と対象:

第1回 平成25年4月16日(火)～4月18日(木) 民俗資料

第2回 平成25年9月25日(水)～9月27日(金) 民俗資料・考古資料

第3回 平成25年12月11日(水)～12月13日(金) 図書資料・歴史資料

第4回 平成26年3月4日(火)～3月18日(火) 民俗資料
委託先:関東港業株
使用薬剤:第1～3回 酸化プロピレン製剤(商品名アルプ)
第4回 二酸化炭素(炭酸ガス)

[学習資料展資料燻蒸]

殺虫・殺卵を目的とする燻蒸を行った。

期間と対象:平成25年4月10日(水)～4月24日(水) 民俗資料等

委託先:関東港業株

使用薬剤:二酸化炭素(炭酸ガス)

[野外展示・復元竪穴住居]

殺虫を目的として防除作業を行った。

期間:平成25年6月27日(木)～6月28日(金)

対象:復元竪穴住居3棟

委託先:関東港業株

使用薬剤:フェノトリン炭酸製剤(商品名ミラケンS)

6 平成25年度常設展・企画展アンケート結果

■ 調査方法と設問内容

調査は、アンケート用紙をそれぞれ、主題展示室前(常設展アンケート)と企画展示室前ロビー(企画展アンケート)に置き、記入を利用者の任意に任せた調査票自己記入式で行った。

各アンケートに共通する設問は、回答者の性別、年齢、住所、来館回数、博物館に関する情報をどうやって入手したか、交通手段、職業、行動グループ、展示についての印象・感想である。

以下に、回答者の傾向を端的に示した“性別”と“年齢”のクロス集計、及び“来館回数”“満足度”という計3項目の結果をとりあげる。

(1) 平成25年度常設展

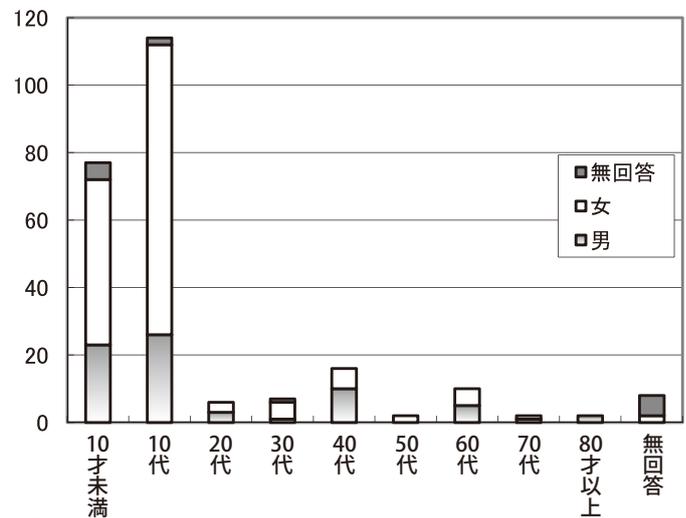
■ 観覧者数 16,968人

■ アンケート有効回答者数 244件(回答率 1.4%)

■ 調査期間 平成25年4月1日(月)～平成26年3月31日(月)

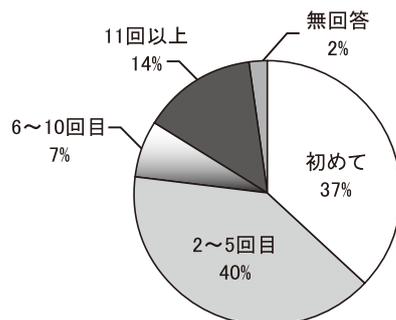
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	23	49	5	77
10代	26	86	2	114
20代	3	3	0	6
30代	1	5	1	6
40代	10	6	0	16
50代	0	2	0	2
60代	5	5	0	10
70代	1	1	0	2
80才以上	2	0	0	2
無回答	0	2	6	8
計	71	159	13	244



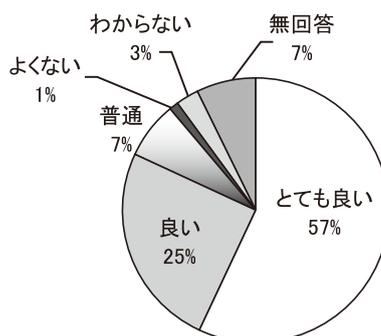
■ 来館回数

初めて	91
2～5回目	96
6～10回目	17
11回以上	35
無回答	5
計	244



■ 回答者の満足度

とても良い	139
良い	61
普通	18
よくない	2
わからない	8
無回答	16
計	244

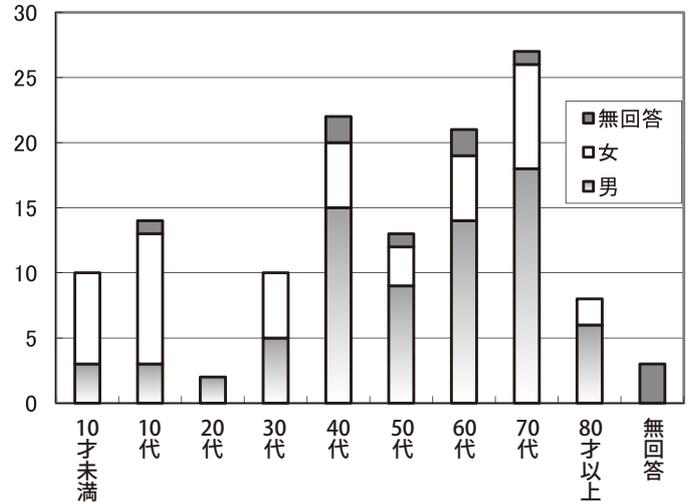


(2) 市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「写真でみる松戸市の70年」・「松戸市立博物館20年のあゆみ」

- 観覧者数 5,241人
- アンケート有効回答者数 130件(回答率 2.4%)
- 調査期間 平成25年4月27日(土)～平成25年6月9日(日)

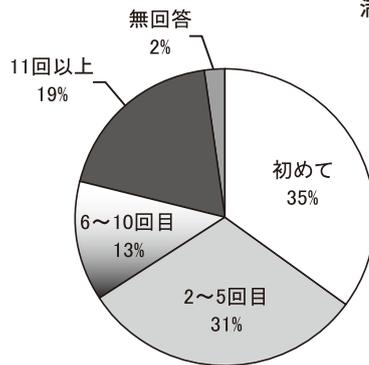
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	3	7	0	10
10代	3	10	1	14
20代	2	0	0	2
30代	5	5	0	10
40代	15	5	2	22
50代	9	3	1	13
60代	14	5	2	21
70代	18	8	1	27
80才以上	6	2	0	8
無回答	0	0	3	3
計	75	45	10	130



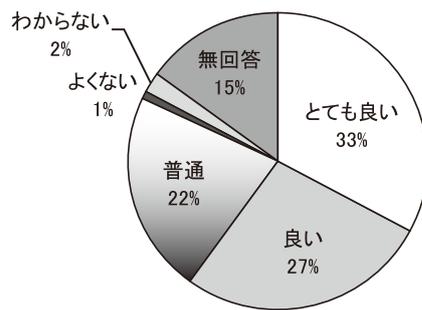
■ 来館回数

初めて	46
2～5回目	40
6～10回目	17
11回以上	25
無回答	2
計	130



■ 回答者の満足度

とても良い	43
良い	35
普通	29
よくない	1
わからない	2
無回答	20
計	130

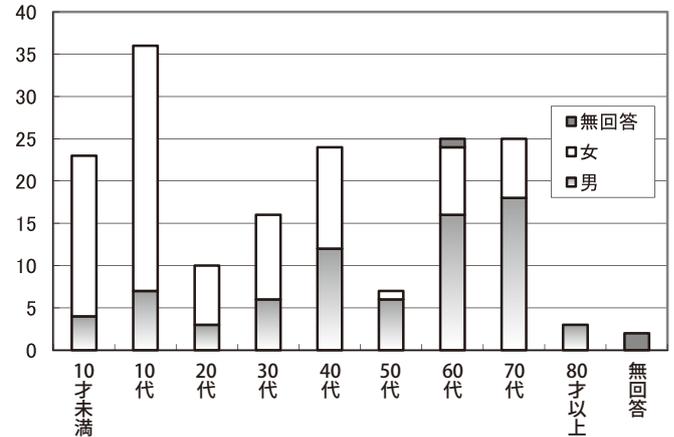


(3) 市制施行70周年・開館20周年記念 館蔵資料展「人生の民俗－誕生・結婚・葬送－」

- 観覧者数 2,789人
- アンケート有効回答者数 171件(回答率 6.1%)
- 調査期間 平成25年7月20日(土)～平成25年9月16日(月)

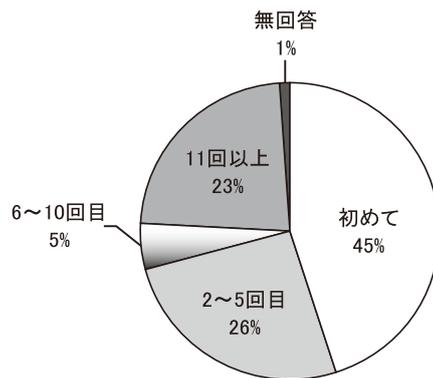
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集

	男	女	無回答	計
10才未満	4	19	0	23
10代	7	29	0	36
20代	3	7	0	10
30代	6	10	0	16
40代	12	12	0	24
50代	6	1	0	7
60代	16	8	1	25
70代	18	7	0	25
80才以上	3	0	0	3
無回答	0	0	2	2
計	75	93	3	171



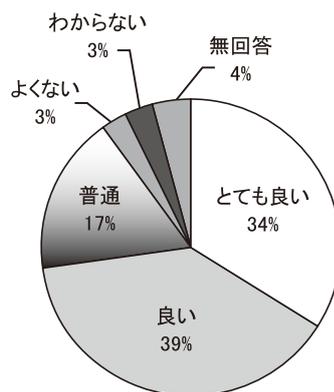
■ 来館回数

初めて	77
2～5回目	44
6～10回目	8
11回以上	40
無回答	2
計	171



■ 回答者の満足度

とても良い	58
良い	66
普通	30
よくない	5
わからない	5
無回答	7
計	171

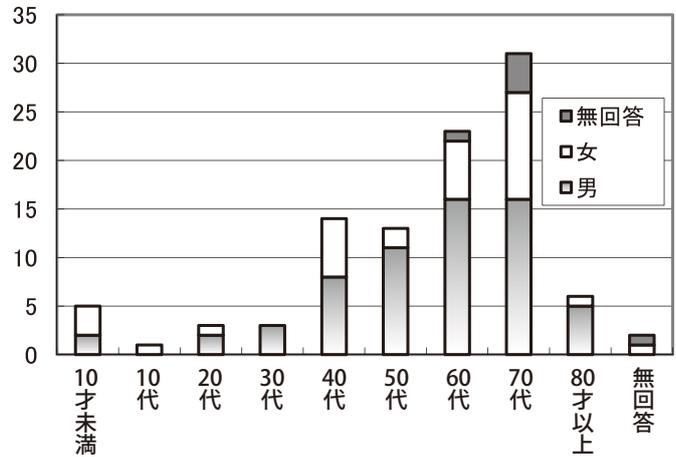


(4) 市制施行70周年・開館20周年記念 特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」

- 観覧者数 2,576人
- アンケート有効回答者数 101件(回答率 3.9%)
- 調査期間 平成25年10月5日(土)～平成25年11月24日(日)

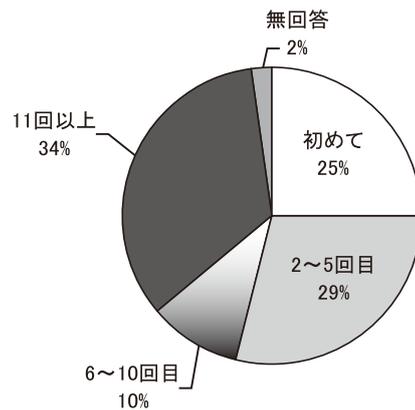
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	2	3	0	5
10代	0	1	0	1
20代	2	1	0	3
30代	3	0	0	3
40代	8	6	0	14
50代	11	2	0	13
60代	16	6	1	23
70代	16	11	4	31
80才以上	5	1	0	6
無回答	0	1	1	2
計	63	32	6	101



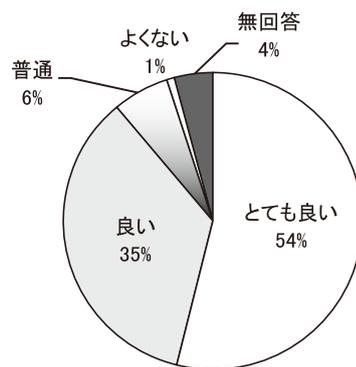
■ 来館回数

初めて	25
2～5回目	29
6～10回目	10
11回以上	35
無回答	2
計	101



■ 回答者の満足度

とても良い	55
良い	35
普通	6
よくない	1
わからない	0
無回答	4
計	101

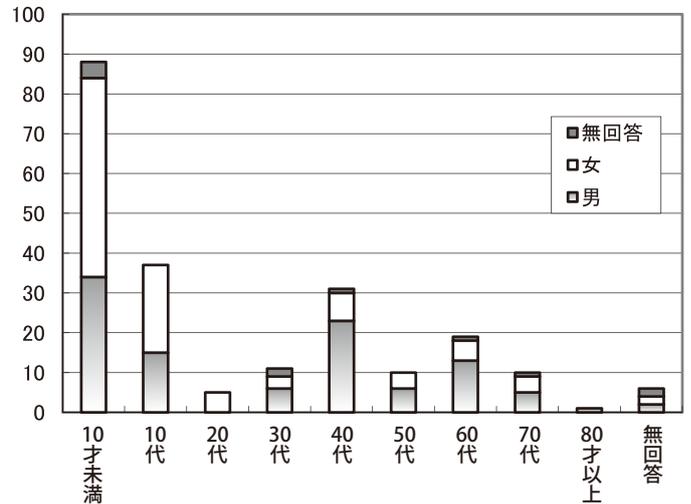


(5) 学習資料展「昔のくらし探検」

- 観覧者数 8,827人
- アンケート有効回答者数 219件(回答率 2.4%)
- 調査期間 平成26年1月15日(水)～平成26年3月30日(日)

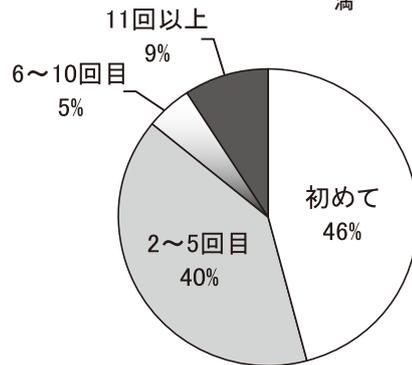
■ アンケート回答者の傾向・・・年齢×性別のクロス集計

	男	女	無回答	計
10才未満	34	50	4	88
10代	15	22	0	37
20代	0	5	0	5
30代	6	3	2	11
40代	23	7	1	31
50代	6	4	0	10
60代	13	5	1	19
70代	5	4	1	10
80才以上	1	0	0	1
無回答	2	2	2	7
計	105	102	10	219



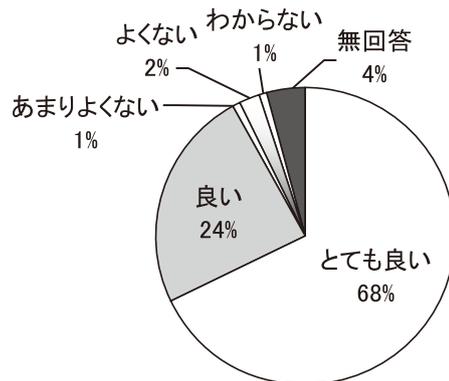
■ 来館回数

初めて	100
2～5回目	88
6～10回目	12
11回以上	19
無回答	0
計	219



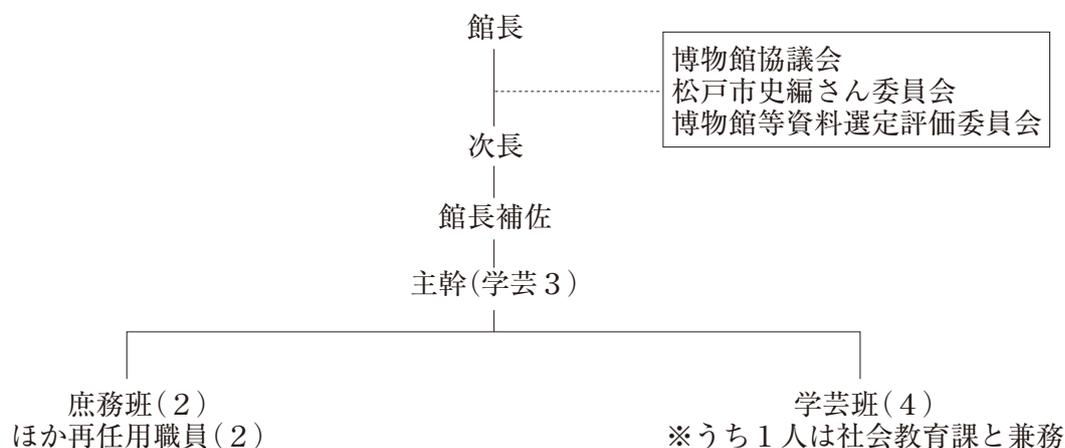
■ 回答者の満足度

とても良い	149
良い	53
普通	2
よくない	3
わからない	3
無回答	9
計	219



IV 組織と運営

1 組織



2 歳出予算

(単位 千円)

事業 科目	予算額	内 訳						
		管 理 運 営	展 示 事 業	学 習 支 援	資 料 収 集	自然史 関 連	市 史 編さん	市庁舎 除 染
報酬	272	204					68	
賃金	16,427		2,685	7,461	5,181		1,100	
報償	1,865		155	300	330	20	1,060	
旅費	338		253		85			
需用	38,799	22,978	5,750	517	1,744	153	7,657	
役務	1,611	543	625	60	158		225	
委託	84,103	55,272	16,121	910	7,123			4,677
使用	6,459	620	4,790	750			299	
工事	0							
原材	43	43						
備品	2,632	150	232	100	2,150			
負担	96				96			
計	152,645	79,810	30,611	10,098	16,867	173	10,409	4,677

3 事務事業

事務事業名	事務事業の主な内容
博物館管理運営事業	施設の維持管理を目的としており、館利用者が安全で快適な環境で学習できるよう施設を整備する。また、博物館協議会において、適正な事業方針を審議する。
博物館展示事業	総合展示・主題展示・野外展示・映像展示で構成し、市民に郷土の歴史と文化への理解を深めてもらう。また、年4回程度、企画展・資料展・学習資料展を実施する。
博物館学習支援事業	歴史講座・体験教室・講演会等の開催、デジタル情報の提供、学校教育との連携などを図り、松戸の歴史文化等にかかわる最新情報を様々な媒体を通して提供する。
博物館歴史資産収集調査事業	松戸を中心とする歴史・文化・自然史等に関する資料の収集・保存及び調査研究を行い、市民の共有の資産として後世に伝える。
市史編さん事業	市民に郷土の歴史を知ってもらい、郷土に対する誇りを育てるため、松戸市史の編さんを行う。上巻改訂版刊行に向けて(平成26年度刊行予定)業務を実施中。

4 各種委員会等

(1) 博物館協議会

委員名簿

(平成26年3月31日現在)

区分	氏名	役職等
学校教育	綿貫 貴	松戸市立和名ヶ谷中学校校長
	西郡 泰樹	松戸市立矢切小学校教諭
社会教育	山口恵理子	松戸青年会議所監事
家庭教育	関根 恵子	松戸市PTA連絡協議会役員
学識経験者	安蒜 政雄	明治大学教授
	濱島 正士	国立歴史民俗博物館名誉教授
	原 正利	千葉県立中央博物館分館・海の博物館分館館長
	佐藤 孝之	東京大学教授
	小島 孝夫	成城大学教授

任期2年 平成27年9月30日まで

第1回協議会

平成25年6月23日(日)

会場：博物館会議室

- 議題：(1)平成25年度博物館事業概要の説明
(2)館蔵資料展「写真でみる松戸市の70年／松戸市立博物館20年のあゆみ」の内覧と評価について
(3)その他

第2回協議会

平成25年11月10日(日)

会場：博物館会議室

- 議題：(1)会長・副会長互選
(2)平成25年度博物館事業上半期の報告
(3)平成26年度博物館事業計画について
(4)特別展 松戸市制70周年・開館20周年記念特別展「松戸の発掘60年史－市内の遺跡を再検討－」の内覧と評価について
(5)その他

(2) 博物館等資料選定評価委員会

委員名簿

(平成26年3月31日現在)

氏名	専門	役職等
安蒜 政雄	考古	明治大学教授
金子 隆一	美術史	東京都写真美術館専門調査員
久保田昌希	歴史	駒澤大学教授
佐野 賢治	民俗	神奈川大学教授
松尾美恵子	歴史	前学習院女子大学教授

任期2年 平成26年9月30日まで

委員会

平成25年度の開催はなし

(3) 松戸市史編さん委員会

委員名簿

(平成26年3月31日現在)

氏名	役職等
小山田 義夫	流通経済大学名誉教授(中世史)
大井 弘好	前(財)新松戸郷土資料館館長(民俗学)
中野 達哉	駒澤大学教授(歴史学)
望月 幹夫	松戸市立博物館館長(考古学)
関根 孝夫	東海大学名誉教授(考古学)

任期2年 平成26年6月30日まで

第1回編さん委員会

平成26年2月23日(日)

会場：博物館会議室

議題：(1)委員長及び副委員長の選任
(2)「松戸市史上巻」改訂の進捗状況
(3)その他

原始・古代部会員名簿

(平成26年3月31日現在)

氏名	役職等
関根 孝夫	部会長/前松戸市立博物館長
古里 節夫	総括/元松戸市立博物館学芸員
大森 隆志	松戸市立博物館(旧石器)
川口 武彦	水戸市教育委員会(旧石器)
清藤 一順	八千代市立郷土博物館長(縄文)
倉田 恵津子	元松戸市教育委員会(縄文)
峰村 篤	松戸市教育委員会(縄文)
須賀 博子	日本考古学協会会員(縄文)
設楽 博己	東京大学(弥生)
松尾 昌彦	聖徳大学(弥生・古墳・古代)
小林 孝秀	松戸市立博物館(弥生・古墳・古代)
黒須 利夫	聖徳大学(古代)
百原 新	千葉大学(自然)

中世部会員名簿

(平成26年3月31日現在)

氏名	役職等
小山田 義夫	部会長/流通経済大学名誉教授
齋藤 慎一	江戸東京博物館
山本 隆志	元筑波大学
関山 純也	松戸市教育委員会
中山 文人	松戸市立博物館

- ・原始・古代、中世合同部会
- ・原始・古代部会
- ・執筆状況打合せ会(原始・古代)
執筆を開始したため開催せず

5 博物館利用者数の統計

利用者総計 69,790人

常設展示月別観覧者数、並びに平成25年度企画・特別展示等観覧者数は以下の通りである。

常設展示観覧者数 (平成25年4月1日～平成26年3月31日現在)

月	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)						観覧者総数(人)	
		個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等		無料観覧者計
		一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生								
4	24	407	47	0	0	-	-	454	127	24	77	339	54	621	1,075
5	26	589	26	0	0	-	-	615	862	73	100	298	193	1,526	2,141
6	20	361	34	0	0	-	-	395	497	12	49	142	187	887	1,282
7	26	315	33	44	0	-	-	392	90	23	31	207	22	373	765
8	27	564	54	0	0	-	-	618	33	28	56	561	113	791	1,409
9	24	356	18	199	0	-	-	573	0	15	21	145	48	229	802
10	27	148	1	30	0	249	5	433	241	23	78	105	38	485	918
11	26	264	6	28	0	262	9	569	30	19	139	184	91	463	1,032
12	22	226	11	0	0	-	-	237	0	10	25	130	28	193	430
1	22	309	15	37	0	-	-	361	2,594	11	19	230	123	2,977	3,338
2	23	348	14	30	0	-	-	392	1,901	16	28	216	25	2,186	2,578
3	25	418	21	112	0	-	-	551	124	14	44	450	15	647	1,198
計	292	4,305	280	480	0	511	14	5,590	6,499	268	667	3,007	937	11,378	16,968

企画・特別展示等観覧者数

企画・特別展	開催期間	開館日数(日)	有料観覧者数(人)						無料観覧者数(人)						観覧者総数(人)	
			個人		団体		共通		有料観覧者計	学習活動	身体障害者	70歳以上	中学生以下	視察等		無料観覧者計
			一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生	一般	高校生 大学生								
館蔵資料展 「写真でみる松戸市の70年」 「松戸市立博物館20年のあゆみ」	H25.4.27～ H25.6.9	37	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	5,241	5,241
館蔵資料展 「人生の民俗」	H25.7.20～ H25.9.16	51	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	2,788	2,788
特別展 「松戸の発掘60年史-市内の遺跡を再検討-」	H25.10.5～ H25.11.24	44	319	6	58	0	511	15	909	137	41	289	302	898	1,667	2,576
学習資料展 「昔のくらし探検」	H26.1.15～ H26.3.30	62	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	8,827	8,827
計		194	319	6	58	0	511	15	909	137	41	289	302	898	18,523	19,432

※特別展以外については、無料展示につき観覧者の内訳は把握していない。

博物館無料ゾーン利用者

(下段総数単位：人)

博物館施設名	プレイルーム	映像展示	野外展示	合計
日数	292日	292日	292日	—
利用者総数	9,193	3,424	17,514	30,131

講座・講演会等参加者

3,259人

博物館利用者総計 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位：人)

	平成25年度	平成24年度	前年度比較
常設展示観覧者数	16,968	15,474	1,494
企画・特別展示観覧者数	19,432	17,882	1,550
博物館無料ゾーン利用者	30,131	30,622	△491
講座・講演会等参加者数	3,259	3,368	△109
利用者総計	69,790	67,346	2,444

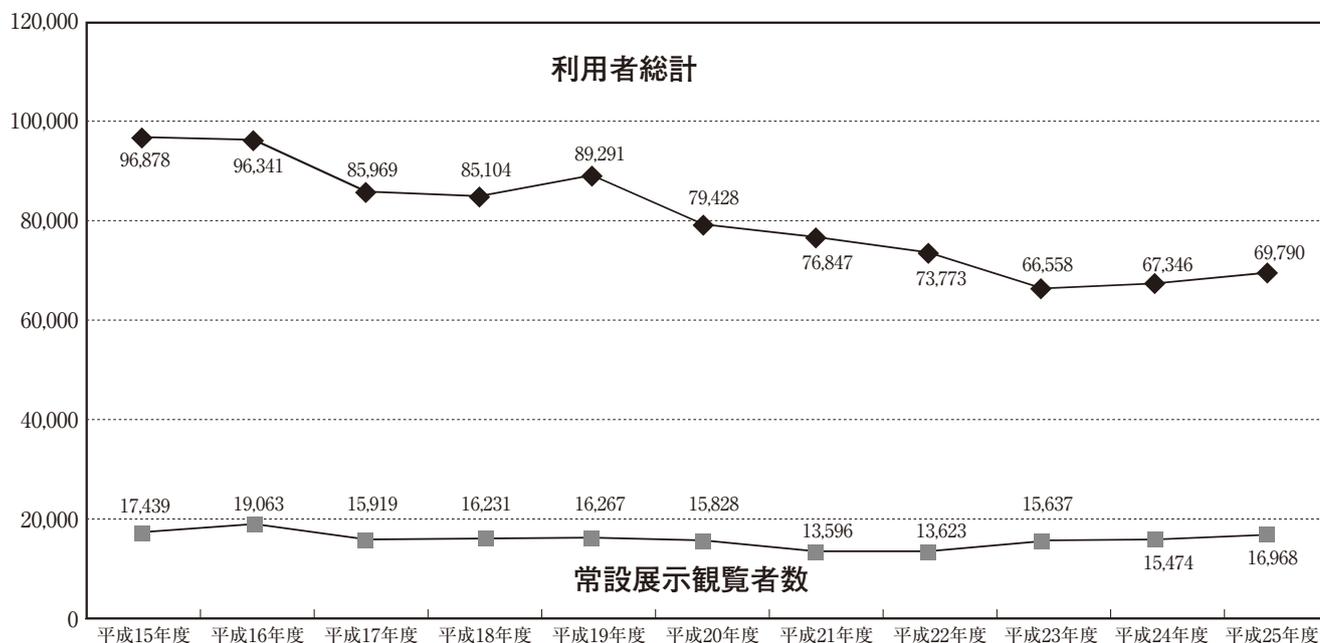
博物館利用者総数の推移 (博物館施設利用者の推移は、下の表のとおりである。)

(単位：人)

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用者総数	96,878	96,341	85,969	85,104	89,291	79,428	76,847	73,773	66,558	67,346	69,790
常設展示観覧者数	17,439	19,063	15,919	16,231	16,267	15,828	13,596	13,623	15,637	15,474	16,968

博物館利用者総数の推移

(人)



6 来訪者(敬称略)

平成25年

- 4月9日 松戸市議会議員
- 4月11日 JCNコアラ葛飾取材
- 5月8日 朝日新聞取材
チバテレビ取材
- 5月23日 BSジャパン取材
- 5月29日 読売新聞取材
- 6月4日 松戸市監査委員事務局視察
- 8月13日 JCNコアラ葛飾取材
- 8月21日 鳥取県倉吉市視察
- 10月5日 伊藤 純一(松戸市教育長)
教育委員
松戸市議会議員視察
- 11月9日 本郷谷 健次(松戸市長)
- 12月19日 松戸ウォーカー取材
- 12月23日 見本 栄次(大阪府阪南市議会議長)

平成26年

- 2月27日 東京都瑞穂町図書館郷土資料館 視察

V 条例・規則

松戸市立博物館条例 (平成4年9月24日 松戸市条例第28号)

(趣旨)

第1条 この条例は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
松戸市立博物館	松戸市千駄堀671番地

(管理)

第3条 博物館は、松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 博物館に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(事業)

第5条 博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、自然史等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、フィルム等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 博物館資料に関する調査研究を行うこと。
- (3) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (4) 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- (5) 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言及び指導を行うこと。
- (6) 他の博物館、美術館、文書館、図書館、学校その他学術又は文化に関する施設との相互協力に関すること。
- (7) その他教育委員会が必要と認める事業

(観覧料)

第6条 博物館に展示されている博物館資料を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納入しなければならない。

- 2 教育委員会は、特に必要と認める場合においては、前項の観覧料を免除することができる。
- 3 既納の観覧料は、返還しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、返還することができる。

(入館の制限及び退館)

第7条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、入館を禁止し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 博物館の施設、展示品等を損壊するおそれのあるとき。
- (3) その他博物館の管理上支障があるとき。

(博物館協議会)

第8条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定により、博物館に松戸市立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員10名以内で組織し、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- (1) 学校教育関係者
- (2) 社会教育関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験者

3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に規定するもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して8か月を越えない範囲内において教育委員会が規則で定める日から施行する。

(平成5年3月松戸市教育委員会規則第2号で、同5年4月29日から施行)

附 則(平成10年3月27日松戸市条例第11号)
この条例は平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年6月21日松戸市条例第23号)
この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市条例第11号)
この条例は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月29日松戸市条例第7号)
この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第6条関係)

区 分		観覧料(1人1回につき)	
		個 人	団体(20人以上)
常設展示	一般	300円	240円
	高校生・大学生	150円	100円
	中学生以下	無料	無料
企画・特別展示	次の各号に掲げる額を超えない範囲内において、その都度展示内容に応じ、教育委員会が定める。ただし、中学生以下の者に係る観覧料については、無料とする。		
	(1)一般	1,200円 (共通観覧料については、1,440円)	
	(2)高校生・大学生	600円 (共通観覧料については、700円)	

備考

- 1 企画・特別展示とは、博物館において通常の展示品以外を展示する場合をいう。
- 2 共通観覧料とは、常設展示及び企画・特別展示を観覧することができる観覧料をいう。

松戸市立博物館管理運営規則

(平成5年3月26日松戸市教育委員会規則第3号)

(趣旨)

第1条 この規則は、松戸市立博物館条例(平成4年松戸市条例第28号。以下「条例」という。)第9条の規定により、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、博物館への入館時間は、午後4時30分までとする。

2 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、必要と認めるときは、前項に規定する開館時間及び入館時間を変更することができる。

(休館日)

第3条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、臨時に休館し、又は休館日を変更することができる。

- (1) 月曜日
- (2) 1月1日から4日まで及び12月28日から31日まで
- (3) 館内整理日(毎月第4金曜日とする。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「祝日法による休日」という。)である場合は、この限りでない。)

2 前項第1項の規定にかかわらず、同号に規定する日が祝日法による休日に当たるときは、その日後において、その日に最も近い祝日法による休日でない日を休館日とする。

(観覧券の交付)

第4条 条例第6条第1項の規定により、所定の観覧料を徴収したときは、観覧券(第1号様式)を交付するものとする。

(観覧料の免除等)

第5条 条例第6条第2項の規定により、観覧料を免除することができる場合は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 高校生及び高校生以下の者を引率する者が教育課程に基づく学習活動として観覧するとき。
- (2) 博物館が開催する講演会、講習会、研究会等に参加する者が観覧するとき。
- (3) 市内に居住する身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護人が観覧するとき。
- (4) 市内に居住する70才以上の者が観覧するとき。
- (5) 県民の日を定める条例(昭和59年千葉県条例第3号)第2条に定める日に観覧するとき。
- (6) その他教育委員会が必要と認めるとき。

2 観覧料の免除を受けようとする者で前項第1号に該当するものは、あらかじめ博物館観覧料免除申請書(第2号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(観覧料の返還)

第6条 条例第6条第3項ただし書の規定により、観覧料の返還を受けようとする者は、博物館観覧料返還申請書(第3号様式)を教育委員会に提出し、承認を受けなければならない。

(資料の貸出し)

第7条 教育委員会は、次の各号に掲げる者に対し、博物館業務に支障がないと認めるときは、博物館で所蔵する資料を貸し出すことができる。

- (1) 国立博物館、博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項の規定による博物館及び同法第29条の規定による博物館に相当する施設の設置者
- (2) 前号に掲げる者のほか、教育委員会において特に認める者

2 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、博物館資料貸出申請書(第4号様式)を教育委員会に提出し、博物館資料貸出許可書(第5号様式)の交付を受けなければならない。

3 博物館資料の貸出期間は、60日以内とする。ただし、教育委員会が必要があると認めるとき

は、これを延長することができる。

(文献等の閲覧等)

第8条 教育委員会は、必要があると認めるときは、博物館で所蔵する資料のうち文書及び図書(以下「文献等」という。)の閲覧又は複写(文書については、マイクロフィルムに保存されているものに限る。)をさせることができる。

2 文献等を閲覧しようとする者は、博物館文献等閲覧許可申請書(第6号様式)を教育委員会に提出し、博物館文献等閲覧許可証(第7号様式)の交付を受けなければならない。

3 博物館文献等閲覧許可証の有効期間は、交付の日から1年とする。

4 文献等の複写を希望する者は、博物館文献等複写申請書(第8号様式)により教育委員会の許可を受けなければならない。

(閲覧又は複写の制限)

第9条 教育委員会は、次の各号に掲げる文献等の閲覧又は複写を許可しないものとする。

- (1) 未公開および未整理のもの
- (2) 保存に影響を及ぼすおそれがあると認められるもの
- (3) 寄託された文献等で寄託者の同意を得ていないもの
- (4) その他教育委員会が不相当と認めたもの

(入館者の遵守事項)

第10条 博物館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、設備、展示資料等を汚損し、又は損傷しないこと。
- (2) 許可なく展示資料の写真撮影、模写等の行為を行わないこと。
- (3) 所定の場所以外において喫煙し飲食し、又は火気を使用しないこと
- (4) 無断で広告その他これに類するものを掲示又は配布しないこと。
- (5) 他人に危害を加え、又は迷惑となる行為をしないこと。
- (6) 前各号に定めるもののほか、教育委員会の指示に従うこと。

(所掌事務)

第11条 博物館の所掌事務は、別表のとおりとする。
(職務)

第12条 館長は、博物館の事務を掌理し、職員を指揮監督する。

2 次長は、館長を補佐し、所属の事務を統轄する。

3 館長補佐は、館長及び次長を補佐する。

4 その他の職にある者は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

(博物館協議会の会長等)

第13条 条例第8条第1項に規定する博物館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(博物館協議会の会議等)

第14条 協議会の会議は、会長が招集し、議長となる。

2 協議会は、委員の過半数の出席がなければ、会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもってこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 協議会は、特に必要があるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

5 協議会の会議は、公開を原則とする。ただし、協議会において会議を公開しないと認めたときは、この限りでない。

6 協議会の庶務は、博物館において処理する。

7 前各項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(委任)

第15条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成5年4月29日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日松戸市教育委員会規則第10号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成7年3月2日松戸市教育委員会規則第5号)

この規則中、第5条第1項の改正規定は平成7年4月1日から、第11条に1号を加える改正規定は公布の日から施行する。

附 則(平成8年3月14日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成10年3月26日松戸市教育委員会規則第9号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年7月11日松戸市教育委員会規則第12号)

この規則は、平成13年10月1日から施行する。

附 則(平成14年3月4日松戸市教育委員会規則第1号)

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月31日松戸市教育委員会規則第8号)

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成23年3月30日松戸市教育委員会規則第3号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月30日松戸市教育委員会規則第4号)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成25年3月15日松戸市教育委員会規則第4号)
この規則は、平成25年4月1日から施行する。

別表(第11条関係)

- ・ 文書の收受、保存及び公印の管理に関する事。
- ・ 観覧料の徴収に関する事。
- ・ 予算、経理及び物品の管理に関する事。
- ・ 要覧及び年報の作成に関する事。
- ・ 財産の管理に関する事。
- ・ 施設及び設備の維持管理に関する事。
- ・ 博物館協議会に関する事。
- ・ 資料選定評価委員会に関する事。
- ・ 市史編さんに関する事。
- ・ 市史編さん委員会に関する事。
- ・ 関係団体との連絡調整に関する事。
- ・ 資料の収集、保存及び展示に関する事。
- ・ 資料の調査及び研究に関する事。
- ・ 資料に関する講座、講演会、研究会等の開催に関する事。
- ・ 資料に関する目録、解説書、図録、調査研究、報告書等の作成に関する事。
- ・ 資料に関する相談、情報提供に関する事。
- ・ 博物館資料に関する閲覧、貸出等についての許可に関する事。
- ・ 博物館資料の寄贈、寄託に関する事。
- ・ 他の博物館、図書館、学校等との連絡及び協力に関する事。
- ・ その他博物館の専門的事項に関する事。

第1号様式～第8号様式 省略

松戸市立博物館等資料選定評価委員会設置要綱

(設置)

第1条 松戸市立博物館及び松戸市戸定歴史館(以下「博物館等」という。)が行う資料の収集に関し、学識経験を有する者の意見等を求めるため、松戸市立博物館等資料選定評価委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(所掌事務)

第2条 委員会は、博物館等が行う資料の収集に当たり、次の各号に掲げる事項について審議検討する。

- (1) 資料の真がんに関する事。
- (2) 価格の適否に関する事。
- (3) 寄贈及び寄託の受入又は購入の適否に関する事。
- (4) 前各号に掲げるもののほか必要と認める事項。

2 委員会は、前項の規定にかかわらず当該資料

の購入価格が50万円以下のものについては、審議検討を省略することができる。

(構成)

第3条 委員は、学識経験を有する者の中から教育委員会が委嘱する。

2 教育委員会は、必要があるときは該当事項に関し、臨時委員を委嘱することができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。但し、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 臨時委員の任期は、当該事項の審議が終了するまでの間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は委員長が召集し、委員長が会議の議長となる。

2 委員会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができない。

(意見の聴取)

第7条 委員会は、特に必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(補則)

第9条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、平成元年8月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成8年7月1日から施行する。

松戸市史編さん委員会条例

(昭和55年3月26日松戸市条例第3号)

(設置)

第1条 郷土をより深く理解することによつて市民の愛郷心を振起させ、あわせて市勢発展の基礎資料となる松戸市史を編さんするために、松戸市史編さん委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じ、松戸市史

の編さんについて調査審議する。

(組織)

第3条 委員会は、5人の編さん委員で組織し、次に掲げる者のうちから市長が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市の職員

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、これを代理する。

(招集及び会議)

第6条 会議は、委員長が招集する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、昭和55年4月1日から施行する。

(松戸市誌編さん委員会条例の廃止)

2 松戸市誌編さん委員会条例(昭和28年松戸市条例第23号)は、廃止する。

(松戸市役所部課設置条例の一部改正)

3 松戸市役所部課設置条例(昭和38年松戸市条例第3号)の一部を次のように改正する。

第2条総務部の項中「市誌編さん」を「市史編さん」に改める。

松戸市立博物館研究員設置要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)の資料整備並びに学校教育及び社会教育における博物館の活用に関し、専門的な調査研究に資するため、博物館に研究員をおく。

(定数)

第2条 研究員の定数は、8人を超えない範囲内において、館長が定める。

(委嘱)

第3条 研究員は、博物館の業務に関し、学識経験を有する者のうちから、博物館館長が委嘱する。

(任期)

第4条 研究員の任期は、1年とする。ただし、年

度中途に委嘱された研究員の任期は、当該年度末までとする。

(職務)

第5条 研究員は、次に掲げる職務に従事する。

- (1) 博物館の資料の収集、保管、展示等に関する専門的、技術的な調査研究
- (2) 学校教育及び社会教育における博物館の活用に関する専門的な調査研究
- (3) その他博物館の事業に関する専門的な調査研究

(会議)

第6条 館長は、研究員の職務の円滑な遂行を図るため、必要と認めるときは、研究員の会議を開催することができる。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成5年12月1日から施行する。

松戸市立博物館資料取扱い及び特別利用に関する要綱

(目的)

第1条 この要綱は、松戸市立博物館(以下「博物館」という。)における博物館資料(以下「資料」という。)の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、借入れ及び調査又は研究のための特別利用に関し、必要な手続を定めるものとする。

(寄贈の申込み)

第2条 松戸市教育委員会(以下「教育委員会」という。)は、資料の寄贈を受けるときは、寄贈の申込みをする者から資料寄贈申込書を徴するものとする。

(寄贈の承認)

第3条 教育委員会は、寄贈を受けるとなった資料を受領したときは、寄贈者に資料受領書を交付するものとする。

(寄託の申込み)

第4条 教育委員会は、資料の寄託を受けるときは、資料の寄託の申込みをする者から資料寄託申込書を徴するものとする。

(寄託資料の受託及び返還)

第5条 教育委員会は、寄託を受けるとなった資料を受領したときは、寄託者に資料受託証書を交付するものとする。

2 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の返還は、資料受託証書と引き替えに行うものとする。

(資料の一時預り)

第6条 教育委員会は、資料の寄贈又は寄託の申込みがあった場合において、資料の寄贈又は寄託の可否を決定するために必要と認めるときは、当該申込者に対し資料の一時預りを求めることができる。

2 教育委員会は、前項の場合において当該申込者が資料の一時預りを承諾したときは、資料と引きかえに資料一時預り証を交付するものとする。

(寄託期間)

第7条 寄託期間は、3年とする。

2 前項の寄託期間の起算日は、寄託を受けた日の属する年度の4月1日とする。

3 教育委員会は、寄託期間の更新をするときは、寄託者から新たに資料寄託申込書を徴するとともに、寄託者に新たに資料受託証書を交付するものとする。

(寄託期間内の返還)

第8条 教育委員会は、寄託期間満了前であっても、寄託者から寄託資料期間内返還申込書の提出があったときは、寄託資料の返還に応ずるものとする。

(寄託資料の一時返還)

第9条 教育委員会は、寄託資料の一時返還をするときは、寄託期間中に寄託者から寄託資料一時返還申込書を徴するものとする。

2 一時返還の期間は、60日を限度とする。ただし、特別の事由がある場合は、その期間を延長することができる。

3 一時返還の期間中における寄託資料の管理については、教育委員会は、その責を負わない。

(寄託資料の所有者変更)

第10条 教育委員会は、寄託者が寄託資料の所有権を移転する場合においては、寄託者から寄託資料所有者変更届を徴するとともに、受託証書の返還を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、教育委員会は寄託者の死亡に伴い相続が発生したときは、相続により当該寄託資料の所有権を取得した者から、寄託資料所有者変更届を徴するものとする。

(受託証書の再交付)

第11条 教育委員会は、前条の規定により寄託資料の所有者の変更が生じた場合は、受託証書の再交付を行うものとする。

2 教育委員会は、寄託者が受託証書を亡失、滅失又は破損した場合は、寄託者にこれらの事由を記載した書面によって受託証書の再交付を申請させるものとする。

(資料の館外貸出し)

第12条 資料の館外貸出しについては、松戸市博物館管理運営規則第7条に定めるもののほか、

次条及び第14条の規定によるものとする。

(資料の館外貸出条件)

第13条 教育委員会は、資料の館外貸出しをしようとするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

(1) 貸出しを受けた者(以下「借受人」という。)は、貸出しを受けた資料(以下「貸出資料」という。)を善良なる管理者の注意をもって管理すること。

(2) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の資格を有すると認められる者が行うこと。

(3) 貸出し期間中に貸出資料の保管等のために要する費用は、全て借受人の負担とすること。

(4) 借受人は、貸出資料を貸出目的以外の用に供してはならない。

(5) 貸出資料を展示する場合は、原則としてケース内展示とし、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。

(6) 借受人は、貸出資料滅失し、又はき損したときは、これによって生じた損害を賠償すること。

(7) 借受人は、資料借用申込書に記載した事項を遵守すること。

(8) 借受人において、貸出条件に違反する行為があるとき又は特別の事由が生じたときは、貸出期間中であっても貸出を取り消す場合があること及びこの場合において生じた損害については、教育委員会は、その責を負わないものであること。

(9) 博物館職員の指示に従うこと。

(10) その他必要と認められる条件

(借用書の徴収)

第14条 教育委員会は、貸出資料と引き替えに借受人から資料借用書を徴するものとする。

(資料の借入れ)

第15条 教育委員会は、博物館における展示、研究等のために資料の借入れをするときは、借入れする資料(以下「借受資料」という。)の受領の際、資料預り証を資料の貸主に交付するものとする。

(借受資料の返還)

第16条 借受資料の返還は、資料預り証と引き替えに行うものとする。

(特別利用の申込み)

第17条 資料について、調査、写真撮影等の特別な利用(以下「特別利用」という。)をしようとする者は、資料特別利用申込書(寄託資料にあっては資料特別利用申込書及び所有者の承諾書)を教育委員会に提出して申込まなければならない

ない。

(特別利用の承認)

第18条 教育委員会は、前条の申込みがあった場合において、資料の特別利用を承認したときは、当該申込者に資料特別利用承認書を交付するものとする。

(特別利用の条件)

第19条 教育委員会は、特別利用の承認をするときは、次の各号に掲げる条件を明示するものとする。

- (1) 資料の特別利用申込書に記載した目的以外の用に供してはならないこと。
- (2) 出版物等に掲載する場合は、松戸市立博物館所蔵の旨を明示すること。
- (3) 出版物等に掲載する場合は、博物館(寄託資料にあつては、博物館及びその所有者)に出版物等を寄贈すること。
- (4) 博物館職員の指示に従うこと。
- (5) その他必要と認める条件

(申込書等の様式)

第20条 この要綱の施行に関し必要な申込書等の様式は、別表の定めるところによる。ただし、特に必要と認める場合は、これらの様式に準じたものをもって手続をすることができる。

(委任)

第21条 この要綱の実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成5年12月1日から施行する。
- 2 この要綱の施行前になされた資料の寄贈又は寄託による受入れ、貸出し、特別利用その他の手続については、この要綱の相当規定によりなされたものとみなす。

松戸市立博物館紀要投稿規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)への投稿に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 紀要に投稿することができる者は、次の各号に定めるものとする。

- (1) 投稿時において松戸市立博物館の職員である者
- (2) 投稿時において松戸市立博物館の研究員である者
- (3) 過去において松戸市立博物館の職員であった者
- (4) 松戸市立博物館が投稿を依頼した者

(5) その他松戸市教育委員会が適当と認めた者

(審査)

第3条 原稿の掲載の可否は、松戸市立博物館紀要査読規程(平成23年10月1日施行。以下「査読規程」という。)にもとづいて松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)で査読の上決定し、著者に通知するものとする。

(投稿区分と枚数)

第4条 紀要の投稿区分と枚数は、次の各号に定めるところによる。

- (1) 論文 70枚以内(400字詰原稿用紙換算)
- (2) 研究ノート 50枚以内(同上)
- (3) 資料紹介 30枚以内(同上)
- (4) その他 編集委員会の定めるところによる

2 前項の枚数には、本文、注、参考文献、図表を含めるものとする。

(投稿形式)

第5条 投稿の形式は、原則として電子文書によるものとし、電子メールの添付ファイルとして送信し、又は電子媒体を編集委員会事務局宛てに送付する方法によるものとする。併せて、電子文書とは別に、紙媒体に印字された原稿を一部送付する。

2 前項の規定にかかわらず、編集委員会が特に必要と認めたときは、紙媒体による投稿をすることができる。この場合における投稿部数は、4部とする。

3 前2項の原稿を投稿するときは、図1に示す投稿票を添付するものとする。

(締切)

第6条 投稿の締め切りは、毎年10月31日とする。

(校正)

第7条 原稿が受理された後の本文の書き直しは、校正(明らかな誤字脱字を訂正することをいう。)を除き、これを認めない。

2 前項に規定する校正には、松戸市立博物館紀要執筆要領(以下「執筆要領」という。)にもとづいて形式を訂正することを含む。

3 著者による校正は初校のみとし、再校以後は編集委員会事務局が行うものとする。

(別刷の取り扱い及び掲載誌の贈呈)

第8条 著者には著作が掲載された号の紀要を5部贈呈する。

2 別刷が必要なときは、投稿時に編集委員会事務局あて必要部数を通知するものとし、別刷の作成に必要な経費は著者が負担する。

(委任)

第9条 この規程に定めるもののほか必要な事

項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

図1 (用紙規格 J I S A 5)

投稿票

氏 名	
タイトル	
投稿区分	
原稿枚数(400字詰 原稿用紙換算)	

松戸市立博物館紀要編集委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)の設置に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 編集委員会は、次の各号に掲げる事項について調査審議するものとする。

- (1) 松戸市立博物館紀要に投稿された原稿の掲載の可否に関すること。
- (2) その他松戸市立博物館紀要の編集・発行に関し必要な事項

(構成)

第3条 編集委員会の委員は、学識経験を有する者及び関係機関の職員のうちから2名以上の者を松戸市立博物館長(以下「館長」という。)が指名する。

2 編集委員会の委員長は、館長をもってあてる。

(会議)

第4条 編集委員会の会議は委員長が招集し、自ら議長となる。

(意見の聴取)

第5条 編集委員会は、会議に編集委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第6条 編集委員会の庶務は、松戸市立博物館において処理する。

(委任)

第7条 この規程に定めるもののほか必要な事

項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

松戸市立博物館紀要査読規程

(目的)

第1条 この規程は、松戸市立博物館紀要(以下「紀要」という。)に投稿された原稿の査読に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(査読)

第2条 松戸市立博物館紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)は、紀要に投稿された論文、研究ノート及び資料紹介(以下「論文等」という。)について査読を行い、その結果を投稿者に通知するものとする。

2 編集委員会は、必要に応じて編集委員以外の者に査読を依頼することができる。

(査読方法)

第3条 編集委員会は、査読対象の論文等に関し、別表1に掲げる事項について評価を行う。

(判定)

第4条 編集委員会は、前条の評価に基づいて別表2に掲げる4段階の判定を行う。

2 前項の判定は、編集委員の過半数の賛成によって行うものとする。

(委任)

第5条 この規程に定めるもののほか必要な事項は、松戸市立博物館長が別に定める。

附 則

この規程は、平成23年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

別表1

1 形式

- (1) 表題・副題の適切さ
- (2) 章・節等の全体構成の適切さ
- (3) 原稿枚数の適切さ
- (4) 投稿区分の妥当性

2 内容

- (1) 素材及び資料の妥当性、提示方法
- (2) 論理展開の明確さ
- (3) 内容の正確さ、完成度
- (4) 結論の提示方法

3 図表等

- (1) 図表の必要性
- (2) 図表の作成、説明の適切さ

4 文献

- (1) 参照文献の妥当性、引用の適切さ

5 表現

- (1) 文章の表現力、読みやすさ

別表2

1 掲載可(再審査不要)

- (1) このままで掲載可
- (2) 指摘箇所訂正後に可

2 修正後再審査

- (1) 書き直し後に再審査
- (2) 投稿区分の変更を必要とする

3 掲載否

- (1) 既発表部分が多い
- (2) 「松戸市立博物館紀要」として不適當
- (3) 内容不可

4 判定不能

- (1) 一部他分野の専門家の判断を必要とする
- (2) その他

職員名簿（平成25年4月1日現在）

館長（非常勤）	望月 幹夫
次長	松本 繁幸
館長補佐	野口 照彦
主査	直井 ふき子
主事	坪内 知世
主幹・学芸員	山田 尚彦
主幹・学芸員	小高 昭一
主幹・学芸員	中山 文人
主査・学芸員	大森 隆志
主査・学芸員	青木 俊也
主査・学芸員	柏木 一朗
主事・学芸員	小林 孝秀
再任用	鈴木 和喜
再任用	柏原 洋子

人事異動

〈平成25年4月1日〉（かっこ内は転出・転入時の所属）

転出：館長補佐	諸角 滋章（消費生活センター）
主査	大関 ちひろ（市民税課）
転入：館長補佐	野口 照彦（社会教育課）
主事	坪内 知世（スポーツ課）
再任用	柏原 洋子（契約課）

〈平成26年3月31日〉

退職：次長	松本 繁幸
-------	-------

松戸市立博物館年報 第21号

発行日 平成26年8月31日
編集発行 松戸市立博物館
松戸市千駄堀671番地（〒270-2252）
電話 047-384-8181（代表）
http://www2.city.matsudo.chiba.jp/m_muse/
印刷 株式会社 弘文社

Printed in Japan, 2014©MATSUDO MUSEUM

